

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
1	おおもり地域再生研究会	青森県青森市	① 渡邊 洋一 ② 澁澤 寿一	①特定非営利活動法人地域福祉研究室pipi 理事長 ②特定非営利活動法人共存の森ネットワーク 理事	地域活性化セミナー「食と農と福祉の連携による地域活性化を考える」	①平成28年4月14日(木) ②平成28年5月12日(木)
					講演内容 初回は地域福祉が専門の渡邊洋一氏が「福祉と農業の連携による地域づくり」をテーマに話をした。この中で、食と農の福祉の連携を考えるためには、それぞれの領域で検討するのではない新しい仕組みにしないとならない。地域が生き残るためには、地域型人材の養成、コミュニティワーカーの必要性を強調した。 また、第2回は、中山間地域の支援に携わる澁澤寿一氏が「福祉領域における自然と人の共存」をテーマに話をした。この中で、この50年の人々の価値観の変化に触れ、昔の暮らしを再確認し、自分が人の役に立っている、死ぬまでここで生きていきたいと思うこと。これらが農福連携では一番重要なことと述べた。	研修成果 初回の講師である渡邊洋一氏は、国の「食と農業と福祉の連携の在り方に関する検討委員会」の元座長であり、その内容や課題等わかりやすく解説し、領域を超えた連携の重要性について、参加者が理解を深めた。また、第2回の講師である澁澤寿一氏は、地域で暮らす人々の価値観の変化から、本来の食と農とは何か、そこに福祉がどのようにつながっていくか、再確認すべきと話した。 互いに共通し、強調していたことは、人材育成であった。渡邊氏は福祉に地域づくりの視点も入れたコミュニティワーカー、澁澤氏は自身が関わる「なりわい塾」を通じて、農山村で生活する若者達の支援に取り組んでいる。彼らと地域住民とのつながりをいかに構築するかを学ぶことができた。
2	Joy-rasse	青森県おいらせ町	①古田 和美 ②新藤 幸子 ③塚原 俊也 ④鳥谷部 伸一	①アロマセラピスト ②草木染・自然遊び講師 ③リバーガイド ④観光農園アグリのリ里おいらせ従業員	地域資源を活かしたイベントで、街の魅力を体感	①平成28年6月4日(土) ②平成28年7月2日(土) ③平成28年7月16日(土) ④平成28年8月6日(土)
					講演内容 【①古田氏】地域で、無農薬のハーブづくりに取り組むコンスファームさんのローズマリーとレモンを使い、赤ちゃんに使用でも安心な虫除けを作成した。ハーブティーのように材料とお湯を入れ、好みで精油をプラスした。その後、コンスファームさんによる、無農薬のハーブ作りについて話を聞き、地元の魅力ある取り組みについて知識を深めた。 【②新藤氏】家族そろって森にだけ、ヨモギなどの葉草を採取、もみじいちごや桑の実などの木の実を食べたり、草木の名前を知って森に親しんだ。採取した草花を鍋で煮て草木染を行った。食べても安全なミノウクレヨンを使って絵を描き、アイロンで定着させ、オリジナルバンダナを作成した。 【③塚原氏】おいらせ川のカヌーを行った。船の回収、危機管理、始まる前の参加者さん同士の関わりを深めるアイスブレイク、漕ぎ方説明、実践しながらのフロアーを頂いた。カヌーの参加希望者が多かったため、午前・午後ともカヌー体験を行った。当日は水量が多めだったため、川の岸ではなく、おいらせ川サモンパークのゴミ拾いの活動を行った。 【④鳥谷部氏】特産のもち小麦を使い、アグリのリさんの体験工房でピザ作りを行った。アグリのリさんと栽培しているトマトやパプリカを参加者さんが自分で収穫し、生地を練り、トッピングして、用意されている石釜に鳥谷部氏がピザを入れて焼いた。	研修成果 ①実際に作って見ることで、身近にある材料を使い、簡単に安全な虫除けが作れることを知り、参加者の満足度は高かった。また、安全で品質の良いハーブを生産する農家さんが身近にあることを知った。家族向けの企画だったが、子どもを預けてくる人が多かった。お母さんがリラックスすることで、家庭環境にいい影響が出てくれたらと思っています。 ②価値がないと思っていた身近な自然の草を使い、素敵な作品ができあがり、食べられる木の実を知ったりする中で、身近な自然の価値に気づいた。地域の魅力を知り、地域への愛着が深まった。また、家族で自然の中で楽しむことで、次世代育成ができた。 ③自分たちが住んでいる地域を、普段とは違う視点から体感することができた。指導者の危機管理により、身近な川が楽しく安全に遊べる場所であり町の財産であると知った。昨年実施したときよりも参加者が増え、徐々に周知されてきていると感じた。これからも毎年、カヌー体験を実施し、魅力の周知に努めていきたい。 ④ふわふわしつりのもち小麦の食感に、参加者さんは大喜びしていた。もち小麦の周知に繋がり、アグリのリさんで使われていなかったピザ焼きの石釜を活用することができた。地元で採れた野菜のおいしさ、収穫する楽しさを感じてもらい、地域に対する愛着が深まった。
3	風の沢ミュージアム	宮城県栗原市	①小菅けいこ ②松室つかさ ③中山マナブ ④磯貝たかあき	ジャズボーカルグループ BREEZE	・地域密着型文化施設で行う文化芸術の教育普及事業企画 ・音楽の知識、実技指導とその成果披露、鑑賞を一貫して行う機会の提供による地域住民の主体的な芸術文化活動参画への意欲喚起	平成28年5月3日(火)
					講演内容 講師であるBREEZEの各員紹介、活動経歴の紹介につづき、活動を基にして参加者への講演(概要:音楽表現は技術の修練や技巧の上手下手よりも、主体者自身が表現される。その人の生活や環境が多様であればあるほど、表現として発露される。表現活動を楽しむことで、生活の中で表現の源となる自分にとって面白いこと、楽しいことを見つけた力がつく。互いのフィードバックによって、文化芸術という生活から一見かけ離れているように見える物事と、日常が結びつき、新たな豊かさのようなものをもたらすと考えている。その後、歌唱指導として発声練習、自分の周辺で歌う他の人の声聞きながら自分の声を出して合わせていく、パートに分かれての練習。成果披露として講師であるBREEZEとともに、実際のコンサートを行うスタイルで披露した。	研修成果 参加者76名中、栗原市在住者が56名(内、片平地区在住者が6名)の参加があった。年齢層は3歳から70代まで、男女比は2:8ほど。ワークショップへの参加および成果披露を通じた今回の催しについては、参加者より「ただ聞くだけではなく、学んで歌って聞いてもらえるというのはなかなかない。前に出て表現する楽しさを味わったように思う、また参加したい。」(50代女性)、「ボーカル指導だけではなくレッスンで、プロの音楽家の生の声聞き、一緒にやる経験ができるのはいい。子どももとても楽しんでた。」(30代女性)などの声があった。
4	くまの天女の会	三重県熊野市	倉原 佳子	オペラ歌手	日本の素晴らしさについて	平成28年4月29日(金)
					講演内容 イタリアに35年住んでみてもわかる日本の素晴らしさについて 日本は四季のうつくしい自然があり、その自然を歌に詠んだり、お茶を点てたりという深い精神性から生まれた文化があり、人々との暮らし方もお互いを思いやる優しい気持ちがあります。インシュタインも言っています。この世界に日本人という民族を作ってくれた神に感謝します。と。 日本人は生真面目でこうあらねばならないという枠に自分を閉じ込めて周りを気にしすぎる嫌いがありますが、もう楽に生きていい、もう好みに生きていいと思います。根っこ部分では皆繋がっている、一つだということも認識してもらって自由におおらかに生きていけばこれほど素晴らしい民族はないと思います。今日、歌を通して肩ひじ張っていた自分を解放し、もっと深呼吸できる自分でありたいと思います。声を出す時も自分の肉体が70%水であることを意識し、柔らかい入れ物だと思って欲しいです。その上で力まないで声を出すようにしてみましょう。童謡という皆さんが知っている歌を肩の力を抜いて歌ってみましょう。	研修成果 全身を使って水という体のゆるゆるの形を表現してくださった倉原さんの真似をして参加者の方も体の力を思い切り抜いた形で声を出しました。童謡を歌って感動して涙される方や、声が今までより違って素晴らしく伸びたと感動される方も多く、素晴らしい成果があったと思います。継続してまた指導してほしいという声も多かったです。また機会がありましたら企画してみたいと思います。小学校で今童謡はあまり教科書にも載っていないそうですが、美しい歌詞や懐かしいメロディーに包まれて皆さんが幸せそうで、たくさんの笑顔を見ました。地域の方々に関しまして今までの地域が過疎高齢化で希望がないと嘆いていた人たちも天女の会の活動を通していろんな方々と触れ合えることが喜びとなっています。特に倉原さんと一緒に童謡を歌うことによって懐かしい子ども時代に選んたように感じ、倉原さんがこの地に魅せられたことなどをお話してくださったのでこの熊野の地の良さを再発見されたようです。また、普段一人暮らしの高齢者もこの会に参加して、「毎日一人であるのと鬱々になっていましたが今日は嬉しかった。」と喜んでくださいました。人を元気にするのは、やっぱり人の触れ合いだと思います。一緒に何かをするということが希望になっていくことを痛感
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日

特定非営利活動法人世界SHIEN子ども学校 のびすく	三重県津市	① 縮岡 康雄 ② 西原 茂樹 ③ 高川 佳都夫 ④ 藤澤 恭子	① 静岡大学大学院 教授 ② 静岡県牧之原市 市長 ③ 静岡県掛川市子ども希望部 部長 ④ NPO結び逢い 理事長	地域でつくる子どもの居場所と学びのあり方フォーラム	平成28年5月7日 (土)
講演内容		研修成果			
5	<p>【①縮岡氏】「みんなの学校」の映画を観た中でつながる話をパネルディスカッションと基調講演でされた。人に思いを重ねるにはどうしたらいいのか？みんなの学校が行ったようにするにはどうしたらいいのか？世界を変えるSHIEN学の基本の講演を行い、実際に思いの無いところに思いを重ねることができるSHIEN相談会を行った。3人1組になり、その方々の悩みを一人ひとり真剣に考えることを行った。そのことにより人のためにしてもらう力がいかに大切かを学んだ。</p> <p>【②西原市長】「みんなの学校」の自主上映会を観たあと、パネルディスカッションに登壇。その中で、協働についてどうしたらいいのか？実践されている協働のまちづくりの仕方について講話された。住民一人ひとりが立ち上がるよう男女協働サロンを立ち上げ、誰もが意見を出せる対話のワークショップを開催している。先ず始めたのは、防災に関する対話による男女協働サロン。住民一人ひとりの意識が高い項目でサロンを展開。実際に行われたDVDを交えながら、参加者の方々に分かりやすく説明された。</p> <p>【③藤澤】掛川市で行っている「人を繋ぐ結び合い」の活動についてお話しされた。自身の活動の中で感じる部分、みんなの学校を観て共感した部分や学びの部分や素直な気持ちでお話しされた。</p> <p>【高川氏】掛川市の行っている活動をご紹介いただいた。子育てしやすいまちNo1を目指している。その実践として、みんなの学校の映画から共感する部分や学びの部分をお話しされた。行政だけではなく、市民一人ひとりが立ち上がるように掛川市も対話を重ね、研修会などを開催している。</p>		<p>【パネルディスカッションで感じたこと】垣根を取り、話すことは大切だと思いました。また、それぞれの立場で本音をぶつけることも大切だと思いました。職種、出身、年齢、性別は違っているからこそ想像していないようなアイデアが出てくる事が良かった。対話が気付くきっかけになる。一体感を感じました。本音が聞けて良かった。それぞれの発言が良かったです。パネルディスカッションの1時間が短かった。いろいろな方の意見が聞けて勉強になりました。子どもの居場所を多くの方々と話し合え、共有できた事が良かったです。こうした空気を広げることが大切です。多様な立場からお考えうかがえてよかったです。対話の重要性を再確認した。自由に話ができ、多くのことを学ぶことができ良かったです。SHIENの心がないと、形だけの居場所となってしまおうと思います。</p> <p>【居場所づくりにはどのようにSHIENの心が関わることか？アンケート結果】本当に寄り添える場を作るためには、SHIENの心が大切。何か人のためにさせていただく心。まだSHIENを体感しているとは言えないのでわかりません。SHIEN学が現在の社会に必要だと理解しました。「してもらう」と「してあげる」を交換することで居場所が心地よくなる。信頼できる関係を築くためにSHIENの心が必要。自身のモチベーションと行動。関わらない職種、立場同士が関わる。対話することはお互いの安心感につながる。頼り頼られる関係作りが居場所づくりになる。ありのままを受け入れる環境づくりにつながる。一人一人に心を重ねることが大切。</p> <p>【全体を通して感じたこと】いろいろな人間が関わり合って子ども達と共に育っていく社会にしたい。参加できて多くの気づきをもらいました。知識を得ました。出会いがありました。一日があつという間に過ぎていくほど中身が濃かった。「重なりを創る」ことを少しでも実践していけるようにしていきたい。様々な学びがありました。参考になった。また参加したい。SHIENというものを知れて本当に良かったです。SHIEN学を身近なところから始めたいと思いました。楽しい会でした。言葉を交わして気持ちを伝える大切さを感じました。全体に、みんなの学校が語りかけてくれた気づきを生かすために、自分自身も学びたい。</p>		

NO	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日	
6	特定非営利活動法人シニア生活設計サポート結 兵庫県芦屋市	①西野 仁雄 ②白木 基之 ③田中 弘之	①名古屋市立大学元学長・名誉教授 ②NPO法人健康な脳づくり会員 ③NPO法人健康な脳づくり会員	認知症予防と実践プログラムの紹介	平成28年4月17日 (日)	
	講演内容			研修成果		
6	<ul style="list-style-type: none"> 認知症について現状を解説。 認知症について解説。 脳の働きについて解説。 脳の活性化について解説。 認知症にならないためにどうすればよいか、具体的な統計を示しながら解説。 実践されている健康的な脳づくり:認知症予防プログラムADAPの実践報告 ADAP:抗認知症アクションプログラム(Anti-Dementia Action Program)の略。手、足、口を繰り返し楽しく働かせ、脳を活性化して認知症予防			参加者は講演の後のワークショップでADAPの体験をしました。講演については、図で詳しく説明されたので良く理解できた、日常生活を変えなければいけない、自助・互助・共助が大事と学んだ、このようなワークショップを今後してほしいなど参加者から積極的な声がありました。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
7	ひまわりグループ 熊本県人吉市	①青木 辰司 ②南雲 吉則	①東洋大学教授 ②ナグモクリニック総院長	命の食事プロジェクト	平成28年5月21日 (土)	
	講演内容			研修成果		
7	開会に先立ち、東洋大学社会学部教授青木辰司氏よりプレメッセージとして、食・農・医を共に考えることの重要性およびグリーンツーリズムの役割について話題提供を頂いた。続いて、ナグモクリニック理事長・総院長の南雲吉則氏によるご講演が行われた。講演内容として、ガンとヒトの生活との関わり、ガンを抑制する人間本来の食生活のあり方、油の摂取方法等については、医学的見地からわかりやすく講話いただいた。その後、「命の食事実践講座」として、南雲氏考案レシピのデモンストレーションの実演、併せて参加者を代表し、主宰である本田により、南雲氏の提言するレシピと食材に人吉球磨の産物である鮎やキクラゲを加えた料理を作り、南雲氏にアドバイスを求めた。なお、このデモンストレーションにおいては青木氏が全体コーディネートをを行い、参加者からの意見・質問を深めた。プログラムの最後に、南雲氏が推奨する健康食・エゴマの栽培を通じて地域づくりを育むという「エゴマプロジェクト」を推奨すべく、共催である人吉球磨グリーンツーリズム協議会によりエゴマの播種デモンストレーションを行った。			全体として積極的な質疑応答と意見交流が図られ、参加者から「ヒトの欲により害する健康。食が命に繋がるということを痛感した。」という感想が見受けられるなど、参加者への意識向上の機会を提供することができたと強く実感する。このように心・身体・地域を育む命の食事について考えることが、人生も地域をも豊かにするという今回の趣旨を深く理解していただくことができた。参加者が総数60名と大人数であったことから、開催当日の午前中、共催である人吉球磨の各グリーンツーリズム研究会メンバーと共に事前勉強会として、60名分の試食の調理を行った。この事前学習を踏まえたうえで本プログラムに望んだことから各メンバーは深い学びを得られ、11月に実施する第34回地域づくり団体全国交流会熊本大会・第10分科会における「食の文化祭によるおもてなし」に向けて、エゴマを中心とした「命の食事プロジェクト」を推進する意欲・意識をより一層高めることができた。		
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
8	特定非営利活動法人街・建築・文化再生集団(通称RAC) 群馬県前橋市	佐滝 剛弘	高崎経済大学特命教授	フォーラム「シルクロード・ネットワークin新庄」 「原蚕の杜」から絹産業遺産の再生・活用・継承を学ぶ	平成28年6月25日 (土)	
	講演内容			研修成果		
8	基調講演:テーマ「多様な日本の絹遺産、そして世界へ」 講義の概要:日本、中国、韓国各地の絹に纏わる駅名や地名等から、多様な絹遺産の事例報告とその歴史的背景、現在に残る意味と意義。次に、国内の世界遺産「富岡製糸場と絹遺産群」と鶴岡の松ヶ丘開墾場との繋がりを、「富岡製糸場」を支えた群馬県外の企業と多彩な人の話、これは、絹産業が多くの地域の連携の上に成り立っていることを示された。「富岡製糸場」については観光以外の要素、蚕・製糸の伝承等の役割にも目を向けるべきである。そして、身近で貴重な絹遺産を地域に活かすには、地域間連携と、地域にとって何が必要かを常に考える視点を持たなければならない。			私たちは、各地の絹遺産を地域の歴史、伝統文化、継承すべき文化遺産として、または地域活性化の切り札として生かす手だてを、地域間交流を通じて知恵を出し合い、創り上げることを目的としている。佐滝氏の講演は、世界遺産としての絹遺産から私たちの身近にある絹遺産まで、全て、広く、シルクロード・ネットワーク上の構成要素であり、地域にとって貴重な資産であることと活動の理念を再認識することができたことが成果として取りあげられる。各地の事例報告からは、さまざまな活動も絹文化を軸に連携することによって多様な魅力を地域に付加する可能性が見えてきた。フォーラムの成果の一つには、連携の輪が拡がり、新たな一歩を踏み出したことにあると考える。		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
9	膳	三重県大紀町	櫻井 治男	三重皇学館大学 教授	熊野古道「伊勢路を守る会」勉強会	平成28年5月29日 (日)
	講演内容				研修成果	
「熊野古道『伊勢路』の名所旧跡と滝原宮」と題して、伊勢神宮の別宮滝原宮のこと等					当日は各地より約100名の参加があり、40部資料を印刷したのがならず、後日希望者に配布を約束するほどの盛況であった。また、ローカルTVや中日新聞の取材も受けた。 伊勢神宮以上に歴史のある滝原宮に関連した地域おこしの重要性についての知識も再確認したと好評を受け、また、広域的な熊野古道伊勢路の歴史についての再確認でき、大好評であった。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
10	鬼無里地区住民自治協議会	長野県長野市	竹内 昌彦	岡山県立岡山盲学校講師	見えないから見えるもの 障害のある人もない人もともに活躍できる地域づくり	平成28年12月3日 (土)
	講演内容				研修成果	
竹内さんは幼いころの病気が原因で失明されました。当時は、障がいのある子どもは家の中に押しとどめよう風潮があった時代でしたが、竹内さんの両親は彼を傷がいない子どもと同じように育てよう努力してくれました。講演の中で、親が悲しむことは決してしてはいけないと話されました。いじめにあった時自分で抱え込むのではなく、あえて大騒ぎしてみんなの問題にして解決したとはなされました。また、視覚障害者への理解を求められました。点字ブロックの意味や横断歩道に流れる音楽の意味を教えてくださいました。そして、点字ブロックにものを置かないでほしいと話されました。視覚障害のある人を見かけたら、勇気を出して声をかけてほしいと話されました。					人としてこの世に生を受けた者の最低限しなければならないことは、命を生き抜くという事だと理解していただけたと思います。また、障害のある方への接し方や共に生きるという事を考えるきっかけになったと思います。いくつになっても夢や目標を持って生きることの大切さを知ることができました。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
11	昼生地区まちづくり協議会	三重県亀山市	①長友 薫輝 ②川北 輝	①三重短期大学教授 ②津市NPOサポートセンター理事長	超高齢化時代の昼生のまちづくりを考える	平成28年2月3日 (金)
	講演内容				研修成果	
【①長友氏】自分や大切な人の健康を守るには、「ストレスと上手に付き合う」「健康に悪い生活習慣を改める」「地域や職場のコミュニティの絆を大切にすること」「健康を損なったのは自分が悪い」と自己責任で片付けられないこと。私たちの健康問題の根底には、本人の努力ではどうすることもできない社会的要素がある。地域の住民が地域の高齢者を支えていくには、地域の絆を大切に住民自治に取り組む必要がある。このために、「地域包括ケアシステムの構築」が欠かせない。 【②川北氏】まちづくり活動を進めていくうえで大切なことは、以下の3点と思っている。 ・地域内に捉われずに、地域の考え方を外部に積極的に発信していくこと →その反応により、取り組みの適切さが見えてくる。 ・世代間の交流の仕組みがあること →あらゆる階層の住民の意見を聞ける仕組みは大切。 ・資金を稼ぐこと →コミュニティビジネスを立ち上げ、地域の金を地域で回す仕組みが必要。 また、報告の中であったように、「できないことは止める」という選択ができていく事は非常に良い。いつまでも拘泥しないで、次の展開を考えることは良いことである。					講師の指摘されたことを今後の活動に活かしていく。特に、「地域包括ケアシステム」の昼生バージョンの構築と、コミュニティビジネスの立ち上げについて、具体的な検討を進めていくこととなる。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
12	佐久昔ばなし大学語り研究会	長野県佐久市	藤田 いづみ	語り手、 「まめの木」文庫主宰	「昔話」の語りによる地域づくり	平成28年7月30日(土)
	講演内容				研修成果	
子どもに語る活動を始めて40年になる。子ども時代に語ってもらった楽しい経験から、自分も子どもに語ってみよう始めた。子どもから大人まで年齢を問わず楽しめるのが語りである。語ることで、人と人(聞き手と語り手)の間に心の交流ができる。今は子どもたちと心を通わせることが難しい時代。だからこそ話を語ることがとても大切なこととなっている。語る話の長短はあまり関係なく、しっかりイメージして覚えることが大事である。耳から耳へと伝わってきたお話は骨組みがしっかりしたものであれば、子どもは耳で聞いて想像を膨らませる事ができる。 実演：わらべうた、昔話の語り、詩の朗読					語りのプロから生の声で聞く機会を多くの方に提供できた。子どもたちはメディアに囲まれる反面、家族や地域との交流が減り、対人関係に疲れや生きづらさを感じていることが少なくない。お話を語ることは、「生の言葉の力」を伝えるだけでなく、子どもが安心して自分を解放させ成長する居場所づくりになることを伝えることができた。また、昔話や読み聞かせに興味がある参加者が多く、語りの実演では聞く楽しさや語るときの心得などを教えてもらうことができ、今後の実践の参考になった。一人でも多くの参加者が、身近な人に語りを始めること、そして語り続けてもらうことを期待したい。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
13	一般社団法人 上野村産業情報センター	群馬県上野村	①岡 美智代 ②井手段 幸樹	①群馬大学大学院教授 ②群馬大学大学院助教授	上野村・森林健康EASEプログラム	①平成28年7月9日(土) ②平成28年9月18日(日)～9月19日(月) ③平成28年10月15日(土)～10月16日(日)
	講演内容			研修成果		
群馬大学の岡教授より、森林が健康に与える影響について講演をいただくとともに、目標設定により三日坊主にならずに継続的な健康づくりができることを講演いただきました。また森林に入る前後の血糖値測定、唾液アマラーゼ測定などを行っていただき医学的見地から森林がストレス改善に効果があったことを参加者に指導していただきました。井手段助教授からは健康年齢の測定を行っていただくとともに、森林において、運動開始前と運動開始後にストレッチ等の運動指導を行っていただきました。また、当日提供する弁当は上野村食生活改善推進委員さんのレシピを用いしましたが、その開発に当たっても助言をいただき、郷土料理を生かしながらも低カロリーでおいしい弁当を開発することができました。					通常の森林セラピーに参加したことがある方とない方半々くらいでしたが、通常の森林セラピーとは違い、参加者は自分の体力年齢を知るとともに、健康についての講演をいただいたことで、継続的な健康作りの大切さを実感していただきました。また、普段は食べられない郷土料理を使ったお弁当は大変好評でした。食生活改善推進委員さんも自分たちで持ち寄ってレシピを開発したことで、新たな楽しみができ、他事業への展開が期待できます。来年度は反省点を生かし、継続して実施を考えています。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
14	YGP 八幡浜 元気プロジェクト	愛媛県八幡浜市	①延藤 安弘 ②山本 康弘	①愛知産業大学 元教授 ②NPO法人シェアライフデザイン 代表	起死回生の“まち育て”の極意を学ぶ	平成28年6月25日(土)
	講演内容			研修成果		
1.発想の転換を 2.「あるものを活かしてないものへ育てていく」 3. ヒト・モノ・コトのゆるやかなつながりの居場所づくり 4. ユーモア・笑い・表現の力を活かす 5. 市民参加型公共施設づくりでまちを元気にする 6. どん底に落ちたまちを地域主導の再生へ 7. 事例紹介(留学生を対象にしたシェアハウスの可能性)					講演会・事例紹介を通じて、八幡浜市外の事例を知ることができたとともに、市内におけるまちづくり活動への活かし方を学ぶことができた。また、今八幡浜市で進められている市民会館跡地の有効活用について、方向性の提案があり、検討委員会での議論材料になった。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
15	釧路フラワーマスター花くらぶ	北海道釧路市	①中井 和子 ②笠 康三郎	①中井景観デザイン研究室代表 ②有限会社緑化計画 代表取締役	平成28年度フラワーマスター認定講習会	平成28年7月24日(日)
	講演内容			研修成果		
【①中井氏】花のまちづくりと景観～快適でうるおいある生活環境を「花のまちづくり」で創り出すために、地球の魅力ある景観形成を進めていくための基本的姿勢と、景観のシンボルとなる場所では公共的視点で花づくりを考えることの重要性をフランスの街並みと北海道の街並みを写真で比較しながら学んだ。 【②笠氏】花のまちづくりの基礎技術～北海道での花づくりの特徴として、気候特性・花の特徴について学び、苗づくり・種まき・土づくりの方法や実際の花壇の写真を参考にデザイン・色のバランス・手入れの仕方について具体的な助言を交えた講演内容となった。					今回の認定講習会により、釧路市で59名がフラワーマスターとして認定された。釧路フラワーマスター花くらぶへの入会を現段階で20名以上が希望している。花くらぶの今後の活動を通して認定者同士が連携を深め、地域のボランティアリーダーとして活動の場を広げ、団体ならではの幅広い活動を展開していくことができる。釧路市以外を受講者13名についても各市町村で活動しているフラワーマスター団体に所属する予定の者がほとんどであり、釧路市以外でも花のまちづくりのための活動が広がることが期待できる。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
16	津軽半島環境研究センター	青森県五所川原市	岩坂 泰信	名古屋大学名誉教授	気象異常：白神山地は持つのか？	平成28年10月2日(日)
	講演内容			研修成果		
空気を支配する要素は、太陽の光、これは極(北極・南極)が薄い光しか当たらない。これに人間が動く条件が加わる。そこで調和をとらなくてはならない。どうしても空気は、冷たい所、つまり極に向かうものである。日本はアジアで、乾燥地帯、基本天候はいい所となっている。つまり海もあり陸も美しい場所になっているという話をしながら、地球の大気はシベリア風・ジェット気流・高気圧・モンスーン・海面上昇・カオスなど、さまざまな大気が動いていると話をされ、最近の傾向として、人間界が吐き出す、CO2を植物が吸収できなくなっているという話を通して氷河の後退など1000年単位、100年単位で変わってきていると話され、最近台風発生場所や進路が変わってきた。等わかりやすく講演してくれた。特に白神周辺の気象がおかしい現象等が話し合わせ、これからは農業・漁業等の第一次産業への影響が心配されると言われた。今まで、私たちは気象庁発表だけを見て天気等を予想して来たが、これからはもっとミクロの地域の変化・異常を察知し、その環境に適応していくことが自分達の暮らしや環境を守ることにいくため、自分たちの努力で地域の特徴を何らかの形でつかんで対策を打っていくことがとても大切になってきたと話された。					ここ最近の異常気象と言われている現象はどうして起きているのか、そのことを科学的に理解することがとても大事です。今回参加した多くの人たちは農家の生産者でりんご農家の人が多く、夏の長雨でりんごの大きさが例年より小さく、秋の収穫がとても心配だと述べていた。農家にしてみれば、秋の収穫期に一年の収入が決まるわけで、その価格がりんごの大きさ、形、色である。特にりんごの粒が小さいということは、収入額も即低いという結果である。また、お米もAランクのお米が収穫できるかどうか大きな話である。聴講者は真剣な顔をして聴講していた。また、研修会が終了した時点で多くの質問があった。テーマは白神山地であるが、白神山でも最近ツキノワグマが里に出てきている現象や、本来生息していない日本ジカが増え続けていること。ナラ枯れ・松枯れが起きていることもすべて日本海の海水温が影響しているということが分かった。地球温暖化問題がこの青森県内でもじわじわと第一次生産者や白神山地にも押し寄せていることを実感した研修会であった。引き続き、毎年実施してもらいたいという声があった。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
	ウミガメネットワーク	三重県鈴鹿市	田中 雄二	NPO法人表浜ネットワーク	ウミガメの上陸産卵調査の研修	平成28年7月9日(土)～7月10日(日)
	講演内容			研修成果		

17	<p>当会は、豊橋市の海岸約11kmを毎日調査しています。豊橋市には、孵化場が3か所あり、保護の名目で卵を掘り返し、孵化場へ卵を移植する人がいます。しかし、孵化場は卵にとって必ずしも安全な場所ではないのです。柵の下から獣が穴を掘って中に侵入し、卵をすべて食べてしまうことがあるからです。表浜のような自然海岸では、あえて孵化場をつくる必要はなく、自然に孵卵させるの方が望ましいと考えます。また、他地域において放流会を行っているところがありますが、子ガメは砂から脱出した直後24時間が最も泳ぐ力が強いので、放流会まで子ガメを拘束し海へ返さないのは、その後の生存率を著しく悪化させます。必要以上に人が手をかけるのは大きな弊害を生むことになります。</p>	<p>表浜は、私たちが活動する伊勢湾沿岸とは全く環境が違います。海岸やその周辺には人家も人工構造物(海岸堤防、突堤、漁港、水産加工場等)もほとんどなく、川もありません。汀線に沿って並べられた消波ブロックも沖にある離岸堤以外はほとんど自然のままです。表浜ネットワークは行政と連携しながら消波ブロックを砂浜から遠い場所に移動させたり、堆砂垣等で砂浜の保全活動をしたりして、自然海岸を守る取り組みを続けています。そのことに深い感銘を受けました。</p> <p>表浜の壮大な自然に触れながら、これまでの活動を振り返り、今後の方向性を模索することができました。ウミガメ保護は、産卵に来る海岸、生息する海域、それを取り巻くすべての環境、それらを含めて考えていかねばならないことを改めて感じました。また、できる限り海岸に自然の状態を残すことが重要だということも学びました。</p> <p>当初の目的であった上陸産卵調査はウミガメの上陸や産卵が前夜になかったのでできなかったのですが、ウミガメ保護活動を進めるうえで重要な事を学べる機会であったと思います。</p> <p>ウミガメだけでなく、海岸に生息するあらゆる動植物や人間のため海や海岸という自然環境を守っていこうと思います。</p>
----	--	---

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
18	まちづくり学校 双海人	愛媛県伊予市	川上 徹也	湘南ストーリーブランディング 研究所 代表	まちづくり講演会&ワークショップ 「物売るバカ!物売るな、物語を売れ!」	平成28年10月29日 (土)
	講演内容			研修成果		
「物語」の持つ力をマーケティングに取り入れた「ストーリーブランディング」の開発者であり、第一人者の川上徹也さんを講師にお迎えし、講演とワークショップを行いました。講演では、ストーリーブランディングの必要性からやり方まで講師自ら参加者へのインタビューをしながらの講演でした。その後、講演の内容から参加者にアピールしたいものを募り、6班に分かれてワークショップが行われました。各班の発表を川上さんが辛口に批評していき、最後まで盛り上がった良い会となりました。			まちづくり学校双海人会員のひとりが以前に川上さんの講演を聞き、その後に双海を案内したご縁もあり、ぜひあのお話をほかの人にも聞いてもらいたいという思いからスタートし、実現したのが今回の講演会でした。参加者には物を販売していたり、将来的に販売しようとして検討している人も多く、参加者の満足度は高く、まちづくり学校双海人としてもおおいに参考になるお話でした。この講演会の学びを今後の活動にも活かしていきたいと思ひます。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
19	公益財団法人 安芸高田市地域振興事業団	広島県安芸高 田市	①作野 広和 ②沖野 弘輝 ③佐藤 充浩 ④吉弘 昌昭	①島根大学教授 ②出羽自治会事務局 ③島根県中山間地域研究 センター 専門研究員 ④農事組合法人ファーム・ おだ 組合長理事	共通テーマ:地域人材育成研究会 ①第一回:中山間地域の集落機能維持 ②第二回:相互扶助の再構築と集落機能の再編 ③第三回:農作物への獣害の現状と対策 ④第四回:元気で住み続けたい夢と希望の郷 づくり	①平成28年6月24 日(金) ②平成28年7月5日 (火) ③平成28年7月13 日(水) ④平成28年10月1 日(土)
	講演内容			研修成果		
①第一回 安芸高田市の全集落の2割が高齢化率50%という現状を踏まえ、集落や地域の農地の維持や集落の自治機能の確保について他地域の事例の紹介を含め今後の地域のあり方についての講義が行われた。 ②第二回 島根県出羽地域の12集落を束ね、1集落だけでは高齢化による担い手不足で担う事の出来なくなる集落の自治機能を確保している実践例をもとに、地域横断的な組織づくりや生活機能の確保のための相互扶助活動に係る講義が行われた。 ③第三回 農業者の生産意欲の低下に繋がる農作物の獣害の拡大について、野生獣の生態や被害防止のための方策について、先進事例を交えて講義が行われた。 ④第四回 農地を保全し、地域を守るための13集落を束ねた富農組織の設立や住民自治機能の確保、さらには自立のための農産物加工販売所の運営など、皆で地域を共同経営している組織体の取り組みについての実践例が紹介された。			本研修会は当市の人口の減少に伴う担い手の不足により、地域の自治機能の確保が困難となることが想定されることから、集落及び地域の実態を把握し、将来の自治機能の在り様に気付いて行動を興す人材を育成することを目標とした。 第1回から第3回は市役所やJAの中堅職員を中心とした「人材育成塾」、第4回は市内全域32の住民自治組織役員や市議会議員、各種団体の構成員を中心とした「まちづくり講演会」などと、これからの地域運営を担う市民を主たる対象者として研修事業を実施した。 いずれも、研修を通じて示された先行事例や取組に関心が寄せられた。中でも地域を共同で管理・経営するといった取組は、今後の安芸高田市のまちづくりに活用できるものである。それぞれの地域の社会環境に沿った地域運営組織の設立に向けた取り組みの参考となるものである。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
20	不動地区食と農 の活性化協議 会	岩手県矢巾町	志村 尚一	有限会社ウィルビー代表取 締役	不動地区の資源と人材を活かした地域づくり201 6	平成28年8月25日 (木)
	講演内容			研修成果		
風景は、そこで暮らす人々がこしらえるもの。今みんなで考え、議論し、ビジョンに向かって力を合わせて動き始めよう。「後悔先に立たず」にならぬよう。相乗効果を生み出す「協働」という手段を用い、「点」を「線」に結び「面」に広げよう。 ・どこまでが他人事でどこから身近なこと? ・どんなことに危機感を持っていますか?→共有 ・未来を切り開くのは?→若者 ・何を目標にするのか?→ビジョン(あるべき姿) ・どんな手段を用いる?→協働・6次産業 ビジョンと協働(コラボレーション) ・共通の目標(ビジョン)が必要 ・所得と雇用の確保:マーケティング ・チャレンジャーになるのか?後追いするのか?後追いの強みを発揮しよう!			講師の志村氏は、平成23年度に協議会が策定した「不動地区活性化ビジョン」の策定にも関わっており、現場に入っている指導には定評がある。今回、地域課題として中山間地域の活性化や景観形成・観光資源の発掘についても豊富な経験の中から具体的な指導をいただいた。 講演会には、不動地区民のほかに関連している岩手県律大学総合政策学部の学生や町内の女性加工グループが参加するなど、若者男女が参加した。このような例は地域にあまりなく、今後新たなネットワークづくりにより、講演内容にもある「点」を「線」に結び「面」に広げていきたいと考えている。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
21	地縁法人錦生 自治協議会	三重県名張市	①大山 吉崇 ②磯部 由香	①学校法人大川学園 理 事長 ②三重大学教授	文化伝承家庭料理大集合	平成29年2月19日(日)
	講演内容			研修成果		
【大川氏】東日本、西日本の食文化・食生活を大局的に比較、また、東海・近畿地方の食生活について分かりやすく解説、さらに料理の時代的発達について 【磯部氏】食育を通して健康寿命に貢献する大切さ、また昔から物を大切に「もったいない」の心の中から発達してきた食文化の解説等			40種の各家庭料理の出品を頂くことができました。両講師の講義や説明とともに生産者から伝承してきている思いの発表があり、のち全員で食していただきました。地域の食文化の良さを確認し伝承保存へと、さらに地域特性を活かした文化発展にこの研修は大きく寄与いただくことができました。			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
22	認定NPO法人 ときわ会藍ちゃん の家	三重県伊勢市	①市原 美穂 ②金田 亜可根 ③久野 雅子	①認定NPO法人ホームホ スピス宮崎 理事長 ②ホスピス研究会 OKAZAKI代表 ③一般社団法人みよしの 家 理事長	伊勢をホームホスピスに〜知己包括ケアシステム の構築に向けて〜	平成28年7月31日 (日)
	講演内容			研修成果		
【講演】暮らしの中で逝く〜住み慣れた地域で豊かに生きる〜 現代社会においてターミナルケアの課題があるなかで、ホームホスピスを始めるに至った経緯から、最期まで個人の尊厳を守る「住まい」としてのホームホスピスの紹介や、そこで実際に生活された方のエピソードを交えつつ、地域の中で人がその人らしく最期を迎えられる社会を目指していくにはどうすればいいかの、そして、看取りのあり方について等。 【鼎談】地域での看取り 自宅で家族の看取りをする大変さやその構え、介護している家族を支援するシステムの必要性や実際にホームホスピスを運営するなかでのエピソード、地域別の医療・福祉の状況等について。また、市民が学び、考えていくことの大切さについて等。			医療・福祉関係者だけでなく、一般市民の方にホームホスピスや地域包括ケアシステム等について考えて頂くことを目指して実施した結果、参加者の7割以上を一般の方が占めました。 終末期の主な療養場所を病院から住み慣れた家庭や地域へ持つていくには、市民の一人ひとりが、看取りについて考え、行動することが必要ななかで、参加された一般の方がホームホスピスや地域包括ケアシステム等について知り、そして考えて頂く機会になったと思っています。また、多くの方がアンケートに答えてくださり、貴重な学びの場となったことが分かりました。このことは、市民がともに助け合い、誰もが最後まで安心して暮らせる地域づくりに向けた第一歩となったと考えています。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
23	特定非営利活動法人 奈良国際協力サポーター	奈良県奈良市	リービ英雄	法政大学教授	奈良の歴史・文化遺産を活かした国際協力と地域活性化事業～英語による万葉集の魅力～	平成29年1月22日 (日)
	講演内容			研修成果		
開会、挨拶、経緯、リービ英雄氏の紹介の後、講演が行われた。万葉集が編纂された奈良での講演は、東京とは違った緊張感がある。万葉集の翻訳は当初、海外向けだったが、日本人向けに「英語で読む万葉集」の本を書いた。万葉集との関わりは、学生時代から大和を歩きまわり万葉集を読み、古い中に新鮮さを理解したとことであった。写真ではなく、歌人の構図表現で成っている。具体的には、「香久山」はMountainではなくhill、「あおによし」の解釈は多くあるが、自分は青い土、Blue Earthとした等翻訳の詳細が語られた。質疑応答、薬師寺拝観、交流研修会においても万葉集の魅力が語られた。					奈良を訪れた外国人に対して、日本文化のルーツである奈良を理解していただき、奈良の魅力を発信することを目的として、万葉集を題材に取り組んだ。本講演会で配布した資料は勉強会やワークの実施により作成した英語資料で、広く活用できるものであった。講演会の参加者の多くは、英語により万葉集をどのように外国人に伝えたいのか以前から試行錯誤されており、一言一句の翻訳を根拠立て、情熱的に語るリービ英雄氏の姿勢に触れることができ、参加者の多くが今後自らが行う活動について良い影響を与えられたことは間違い無いと考える。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
24	特定非営利活動法人 阿見アスリートクラブ	茨城県阿見町	富山 友里	アスリートフードマイスター	ジュニアアスリートの食事と栄養	①平成28年9月18日 (日) ②平成28年11月6日 (日)
	講演内容			研修成果		
・成長期アスリートの食事と栄養 ・疲労やけがに強くなる食事の摂り方 ・食事で強くなる ・貧血防止のために 等 以上のようなテーマに沿って、栄養面的観点からの指導と、食事の練習後の摂り方・練習前の摂り方・試合時の摂り方など現場に即した家庭の食事の在り方をこと細かくわかりやすく講義してくれました。					アンケートの結果から、研修を受けてアスリートの食事についての意識が高まったと答えた親が68%と7割近くとなった。一方で、アスリートの栄養素についての理解度は子どもは33%と少し低い。親と子ども意識の違いなどもよくわかり、この研修会を通してずいぶん食事の意識が高まったことは間違い無い。今後もこのことを大切に指導していきたいと思う。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
25	NPO法人がるだする	北海道苫小牧市	明石 祥子	フェアトレードシティ熊本推進委員会 代表理事	フェアトレードの街作り in 苫小牧	平成28年9月17日 (土)
	講演内容			研修成果		
午前・午後2回の映画上映を含め、明石祥子さんが20年取り組んできたフェアトレードの話をしてくれました。熊本がアジアで初のフェアトレード・シティとして認証されるまでの道のりと、今回熊本の地震で被災してフェアトレードの仲間が心配して手を差し伸べてくれたことにより、改めてフェアトレードで世界の生産者へ購買という方法で遠い日本から手を差し伸べることができると痛感しました。現在では1800ものフェアトレード・シティができています。日本では、熊本市、名古屋市、逗子市がフェアトレード・シティになり、取り組みをしているまちは増えています。経済システムが生み出す、生産者への重労働の過酷な状況、環境汚染、農業汚染、人体への被害を、アパレル産業のひずみを表す映画を観ることにより、言葉を連ねるより説得力があると紹介して「THE TRUE COST」を視聴しました。					参加者は初めて見る映画「THE TRUE COST」に一緒にショックを受けており、これは衣服に関する物語で、私たちが着る衣服を作る人々、そしてアパレル産業を映し出しています。感想はそれぞれでした。生産者は、低賃金でTシャツを作るのに血の出る思いで作っています。農業被害で苦しむインドの綿花の生産者の話では、農薬の借金と病気で最後には畑を取られ、農薬を飲んで自殺する男性が16年間で25万人いた…など信じられない事実がありました。映画の情報量が膨大で、初めて見た人は驚き、怒り、悲しみさまであったようです。ただフェアトレードブランドの会社「ビープル・ツリー」の代表サフィア・ミーの活動などに光を当て、購買運動から、フェアトレードを応援することで生産者の労働に正当な対価を払う方法があることが示されました。明石さんの話では地震が起きたときの話、特に夜間の2度目の地震の臨場感溢れるお話にただ恐怖と驚きでした。被災して明石さんご自身の店「らぶらんどエンジェル」は立ち入り禁止状態になりましたが、日本中、海外にと明石さんの活動は止まりません。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
26	岩木川環境公共ネットワーク協議会	青森県つがる市	大矢 奈美	青森公立大学 准教授	第4回水資源環境公共フォーラム	平成28年8月10日 (水)
	講演内容			研修成果		
岩木川および津軽ダムを中心とした水資源が地域活性化にもたらす効果について講演を行った。津軽ダムは、治水だけでなく観光資源でもあるが、単体ではなく既存の地域資源と連携して活用する方向を考えるべきである。またこうした資源を活かすためには、それを保全しようという住民意識が重要であり、地域愛を育むためにも例えば世界農業遺産の登録を目指すことも有効なのではないかと提案した。					岩木川流域市町村の長がパネリストとして参加し、また河川事務所長、農林関係者の発言も得られた。一般参加者には、地域の住民、学生もおり、多くの参加があった。これにより、行政、企業団体、地域づくり団体のネットワークが構築、あるいは強化されたものと考えられる。さらに水資源の河川整備の重要性に対する認識を共有することができた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
27	ながの協働ネット	長野県長野市	永沢 映	NPO法人コミュニティビジネスサポートセンター 代表理事	NPO、中小企業、社会的企業家、行政がともに学ぶソーシャル・ビジネス勉強会～エイリアンミーツ2016	平成28年6月29日(水) ～6月30日(木)
	講演内容			研修成果		
<p>演台:「社会をよくする、人を育てる、お金も生む!いま地域で最も熱いソーシャル・ビジネスとは?」</p> <p>・ソーシャル・ビジネス(SB)、コミュニティ・ビジネス(CB)が生まれる背景として、人口減少の状況がある。どのような地域の将来を描き活性化させるか明確にする必要がある。</p> <p>・SBの主な収益構造を「支援対象から対価」「行政、企業など支援対象以外から対価」「ネットワークの形成・活用により対価」。特に、「支援対象から対価」は得にくい場合があり、事業性+公益性のバランスを取りかか自立させていくのが大切。</p> <p>・SBは形態、規模、分野が多様であり、評価軸、また参画や資金調達の方法も多様である。このことを踏まえて仕組みづくりをすることがポイントである。</p>				<p>・長野県においてSBへの理解が深まるとともに、創業に向けたきっかけとなるような全国的な動きや実践例を学ぶ事が出来た。</p> <p>・過去2年間の勉強会を生んだ雇用主(コクーン)からプレゼンテーションを行い、講師や国の機関、金融機関のそれぞれの専門的立場からアドバイスをいただき、事業のブラッシュアップが図れた。参加者も実践のノウハウを共有した。</p> <p>・善光寺界隈のリノベーション物件でのSBを見てまわり、現場の課題・成果を共有できた。</p> <p>・今回の講演会等の成果を踏まえて、さらなる創業予定者を発掘するとともに創業支援ネットワークの形成を図っていく。</p>		
28	行丘レクリエーションクラブ	青森県青森市	三好 良子	日本グループワークトレーニング協会 理事長	レクリエーション指導者フォローアップ研修	平成28年9月4日(日)
	講演内容			研修成果		
<p>社会生活を送る中で「人間関係」で悩むことが多くその能力を問われることが多々あります。せっかく能力がありながら、人間関係を損なって、できる仕事をダメにした例は珍しくありません。人間関係をより良くするために各人が持つべき力を「関係力」と捉え、関係力とはいったい何であるかを整理し、関係力を身に付けるためにはどうしたらよいのかを自分自身で見つけなければなりません。「関係力」の土台となる人間的な能力は誰でも持っています。人間である以上、人々との間を生きる力はみんなが持っているのです。問題はそれが十分に引き出されていないことにあると思います。実習を通して理論と実践を身に付けてほしいと思います。</p> <p>実習「コミュニケーション力を鍛える」 実習「ホスピタリティーを豊かにする」</p>				<p>レクリエーション指導者である参加者は、今回の研修を通じて「過去と他人は変えられない、でも、未来と自分は今からでも変えられる。」という講師の言葉が忘れられないと思います。実習をする中で、チームの目的を達成するために「自分は何をしたらよかったのか、もっと良い結果を出すためにはお互いが何をすべきだったのか」を深く考えさせられたのではないのでしょうか。</p> <p>相手を愛えようとせずに、自分を愛えなければ相手も変わる可能性があります。強引に相手を愛えようとせずに、自ら相手との関係の仕方を変えていくと、相手も関わり方を変える可能性があります。そういう可能性を信じて、自立的に建設的に関係力を磨いていくことによりレクリエーション指導者としての自信がついたのではないかと思います。</p>		
29	陸奥湾のホタテを高温から守る植樹祭実行委員会	青森県青森市	吉澤 保幸	一般社団法人 低炭素社会創出促進協議会 代表理事	陸奥湾の海と山を、森里川海の練環で結ぶ低炭素事業	平成28年11月27日(日)
	講演内容			研修成果		
<p>陸奥湾の自然の恵みを引き出す地方創生の意味と展望について、経済を「自然」と「暮らし」の中に埋め戻すという日本銀行時代の経験を活かした視点でのお話があった。陸奥湾の恵みを引き出す水の循環から様々な地域の取り組みを引き出すとともに、そのことが持続可能な環境・持続可能な経済・持続可能なライフスタイルを定着させ、次世代に豊かな環境を残していけるという内容の話であった。</p>				<p>参加者は陸奥湾を中心とした様々な活動を行っている方、例えば海を守るためにゴミ拾い活動をしている団体や町内会連合の会長さん、青森市の環境政策課の課長さんや大学の教授・高校の教諭、大学で地域活性化問題に取り組んでいる大学生や環境パートナーシップの役員の方々などであった。講師と繋がりを持てたのはもちろん、参加者同士で陸奥湾の植林活動を広げていきたいという話に発展したことが良かった。</p>		
30	NPO法人桐生お話の学校	群馬県桐生市	荒木 文子	紙芝居作家 にんぎょげきコロン団代表	地域の民話紙芝居を演じる素晴らしさを知る	平成28年8月23日(火) ～8月24日(水)
	講演内容			研修成果		
<p>・紙芝居の歴史、文化的特徴など実演を交えながら講義</p> <p>・演じる人物を想定した発声練習</p> <p>・受講生にたくさんの紙芝居を実際に演じる経験をさせ、具体的な読み方、間のとり方、絵の抜き方の指導を受けた。</p>				<p>・紙芝居は「芝居」であるという認識を新たにした。</p> <p>・紙芝居舞台の後ろに隠れて読んでいけば良いと簡単に考えていたがそうではなかった。</p> <p>・自分が演じ、アドバイスを受けること、また他の受講生の例を見ることで紙芝居を楽しみながら自然と学べる工夫された楽しい講座だった。紙芝居を生き生きと演じる意欲がわいた。</p>		
31	荒町こころの学校	宮城県仙台市若林区	①木村 紀夫 ②望月 陸太郎 ③山橋 司 ④坪谷 陸 ⑤永野 まり子 ⑥貝山 幸子 ⑦東海林 恒英	①郷土史研究者 ②東京芸大アンサンブル ③東京芸大アンサンブル ④東京芸大アンサンブル ⑤ふきのとう合唱団 ⑥シャンソン歌手 ⑦元仙台市博物館館長	地域のコミュニティづくり「おぼんだよコンサート」	平成28年8月11日(木)
	講演内容			研修成果		
<p>【①木村氏】荒町地区にある石碑の写真と地図を用意し、その中から数か所だけを示し解説をした。時代は木村氏が研究をしている戊辰戦争を中心に荒町周辺の石碑だけではなく当時の日本の政治の状況や薩摩長州との対立まで広がった。南鍛冶町 泰心院に墓のある志茂又左衛門、三百人町 常林院の佐藤信は知られていないが、当時の歴史より掘り起こされた地元の重要な人材資源である。保春院の玉置左太夫は当団体でも積極的に伝えている人物で、壇上に当団体所有の木像を置きその人となりを感じていただいた。</p> <p>【②③④望月氏・山橋氏・坪谷氏】地元出身の望月氏にご協力いただき、東京芸術大学学生によるアンサンブル演奏をしていただいた。今回演奏される楽器に合わせてオリジナルに編曲したという説明を頂いた。聞きなれた曲でも、編曲によって違って聞こえるものである。とても新鮮でフレッシュな演奏をご披露頂いた。</p> <p>【⑤永野氏】先に季節の歌とクラシック曲をご披露頂いた。続いて指揮者の指導のもと、歌学校(別団体)と一緒に、客席のみなさま全員と「みかんの花咲く丘」を合唱した。続いて当団体が推奨している「新仙台市民歌」をまず1番を模範合唱し、続いて客席と一緒に合唱をした。</p> <p>【⑥貝山氏】地元出身で海外生活経験もある本格派歌手の貝山幸子氏に名曲の数々を歌っていただいた。また、「オーシャンゼリゼ」は全員で合唱をした。飛び入りでガナから来ているという観客の方とのやり取りもあり、国際色豊かなステージとなった。</p> <p>【⑦東海林氏】講演は荒町の西側から東への寺院にある墓石や石碑を写真と地図を見ながら解説していただきました。昌伝庵の島野氏親子、東洋等政治家文化人のエピソードなども披露していただきました。万福寺では、相撲関係者や、墓石ではなく「たずねるかた」という珍しい石碑をご紹介いただいた。そのほか解剖の祖となる木村寿貞の石碑など見たことのない石碑もご紹介いただいた。シンポジウムに移ってからは、他パネラーの皆さん共々玉置左太夫の無念さについて意見が合いしきりに残念であるという話になっ</p>				<p>【①木村氏】プロジェクターを利用して写真を示しながら街歩き疑似体験をしていただくという試みは成功であったと思われる。2,3日後にも実際に石碑を見に行ったとの感想が入ってきている。また、ただの石碑紹介だけでなく、歴史、維新時代の政治状況から昨今のテロ等の思想的行動にまで話は及び有意義で奥深いものとなった。</p> <p>【②③④望月氏・山橋氏・坪谷氏】参加者は楽器、編曲の説明に感心していました。また、芸術大学の話も興味深く聞かせていただいた。望月氏には、以前も当団体の主催するコンサートにご協力いただけており、年々上達するのを見て応援している。身近に本格的な文化芸術を感じることができる機会となった。地元から出ているこのように芸術を学んでいる次世代を担う若者たちを応援するとともに今後の活躍を期待したい。</p> <p>【⑤永野氏】季節の歌もクラシックも皆の知っている歌で会場内が温まったところでも全員合唱へ持って行けたのは大変良かった。長丁場でしたが、最後に声を出し客席には満足した雰囲気広がった。当団体が推奨している「新仙台市民歌」も少しは浸透したようだ。</p> <p>【⑥貝山氏】狙い通りに気軽に音楽に参加でき「シャンソン」という垣根を超えて声を出していただいた。また、貝山さまの華やかな雰囲気も楽しむことができたと思う。</p> <p>【⑦東海林氏】知られざるの石碑、墓石などを紹介いただいた。また、ただご紹介いただくだけでなくその由来、歴史、エピソード等も合わせてお話しいただいたことにより100年200年前の「荒町」に思いを寄せ、この地域の大切さ、重みを再発見できたと感じる。まだまだ、ご案内不足とは思いますが、またの機会を頂いてたくさんの人に興味を持っていただき、実際にこの地を散策していただけたらと思います。</p>		

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
32	宮崎「橋の日」実行委員会	宮崎県宮崎市	①松村 博 ②渡辺 浩	①元大阪市建設局 ②福岡大学教授	「橋」を通じた地域づくりシンポジウム	平成28年8月19日 (金)
	講演内容			研修成果		
<p>【①松村氏】土木技術は、江戸時代以前から民衆の開かれた技術であった。図面が読める土木技術者が土木史的観点から検証するとこれまでの歴史的常識に多くの間違いがあることが理解できる。その結果、技術的要因、経済的要因、政治・行政的要因により架橋されていることなど、歴史的背景をもとにまちづくりについてお話しいただいた。</p> <p>【②渡辺氏】木材の利活用がCO2削減にも効果があり、経済循環を生むシステムづくりが必要である。現在、木材の活用はコンクリートとの強度比較でも高く、現代の技術力の向上によりさまざまな利用が可能。一方、森林資源を利用して架ける橋は、森林の管理につながり、中山間地域での就労の場が増すことにもつながること等をお話しいただいた。</p>			<p>「橋」を通じて、どのように地域づくりを進めていくのか。橋の歴史的背景と地域との関わりについて改めて学ぶことができた。また、県内各市町村から土木技術者も多数参加され、土木技術者の視点で地域のインフラを捉えなおすことの大切さを伝えることができたのではないかと紹介され、木を活用した今後の地域づくりを行政、民間事業所、住民の立場で深めることができた。事例紹介では、今年、西米良村で第1回「橋の日」を実施。村内の子どもから大人まで総勢111名の参加。これは、村全体の約1割の参加だった。事業紹介の中で、青年会中武会長より「青年会も子どもたちも大人も生き生きと協力して『橋の日』活動を行う。これがまさに私が目指してきた笑顔あふれる地域づくりでした」との話は、今後、県内の全市町村での「橋の日」開催を目指す私達にとって、また参加されていた多くの市町村の方々にも勇気と元気をいただきました。その他、宮崎市に架かっていた「相生橋」「小戸橋」のお別れ会の事例は、今後の橋と地域住民の繋がりを見直すきっかけとなりました。参加者からは「地域と橋の結びつきの深さを再認識できた」「事例がとても分かりやすく参考になりました」「話題が様々で大変良かった」「思っていたより地域住民等の橋への思いがすごいと思った」等の意見が寄せられました。</p>			
33	特定非営利活動法人 望月まちづくり研究会	長野県佐久市	志賀 勝	月と太陽の暦制作室代表	月と望月「月を楽しむ、暮らしに活かす」	平成28年9月16日 (金)
	講演内容			研修成果		
<p>望月には「月の輪石」「月の神」にまつわる伝説や物証があり、和歌にも「望月の駒」数多く読まれていることで望月が相応しい土地柄である。カレンダーには15日に15夜と記され「中秋の名月」と報道されている。月齢では、今夜(16日)の月が24時を過ぎた明け方(17日)に満月になるので今夜の月が満月というべき。満月1日だけに注目するだけではなく、月の運行を理解し、月齢にも注目し、三日月、月の誕生日、月の結婚式、月見の宴等、月の記念日を生活の中に取り入れ月を通じた発想で外部にもよびかける等の町おこしが考えられる。月の出を待つ「月待ち」は、その時期の自然のサイクルを感じ楽しむことである。</p>			<p>望月の観光資源として城光院では、望月氏の菩提寺として七曜の家紋を紹介してきた。さらに月輪寺から移転した「月の輪石」の解説が加わり、また大伴神社は「月の神」を祀っていて、その謂れを表現した絵が奉納されている等、満月の意味を持つ望月の名が観光資源としてさらに活かせる素材となった。月を理解し、月暦を生活に活かすことで、地域の絆や外部との交流を活性化させる町興しの手段を得た。「月の街」として、名月の一日だけ月と付き合うのではなく、三日月、十五夜、十三夜、満月、新月等のように関連させる手段を得た。また、歴史民俗資料館、本巻公民館との共催で多くの参加者が集まり反響もあった。今後の展開に活かしたい。</p>			
34	なんでもかだるべし〜うら	青森県五所川原市	立花 寶山	日本舞踊宗家立花流三代目宗家	日本舞踊家・立花寶山の「嫁こさ来い」踊り講習会	平成28年9月18日 (日)
	講演内容			研修成果		
<p>当団体が昨年度新たな伝統文化の創造を目指して作成した津軽山王豊年踊歌「嫁こさ来い」を津軽一円、或いは全国の地域活性化に取り組む団体や地域に広めるため、まずは地元住民にこの唄を広く知ってもらい、一緒に参加して唄ったり、踊ったり楽しく交流するために、作詞を担当した日本舞踊家・立花寶山氏の指導のもと「嫁こさ来い」踊り講習会を開催した。</p> <p>当日は、日本舞踊の講義のほか、津軽山王豊年踊唄「嫁こさ来い」の作成秘話などを聞いた後、「嫁こさ来い」の流し踊りと本踊りの指導を行った。</p>			<p>参加者は少なかったが、津軽山王豊年踊唄「嫁こさ来い」の流し踊りや本踊りを一緒に楽しく覚えてもらうことができ、地域住民と交流を深めることができました。また、津軽山王豊年踊唄「嫁こさ来い」の踊りを通じて、市浦地域を盛り上げていくという趣旨を伝えることができました。これによって、市浦地域が少しでも活性化され、次世代を担う子供たちが愛着の持てる地域づくりに繋がっていくのと思います。</p>			
35	神去村青年団	三重県津市	①深津 智男 ②花谷 秀文	①映画プロデューサー ②FLOWER FACTORY代表	青春林業エンタテインメント映画「WOOD JOB!」で中山間地域を盛り上げる!	平成28年8月28日 (日)
	講演内容			研修成果		
<p>【①深津氏】2014年に全国上映された林業青春エンタテインメント映画「WOOD JOB! ～神去村あなあ日常～」のロケ地が、津市美杉村であったことを活かして、地域おこしイベントとして昨年開催している『美杉あなあまつり』(2016.8.28)に合わせて、「WOOD JOB!」ロケ地巡りツアーを開催した。マイクロバスをチャーターして「WOOD JOB!」総合プロデューサーの深津氏が添乗し、ロケ地を巡りながら、ロケの方法、状況、苦労話等について案内、講演していただいた。</p> <p>【②花谷氏】上記①同様に、「美杉あなあまつり」に合わせてロケで作成された千年絵の「御神木」を会場に展示し、参加者が20m程度木挽きをしてもらったうえで、御神木の前で、「御神木」作成をはじめ、「WOOD JOB!」舞台作成の状況、苦労話、裏話などを美術総監督であった花谷氏から講演してもらった。</p>			<p>【①深津氏】1回1時間半のロケ地巡りを午前・午後の2回開催したが、いずれも参加者数25名とバス満席となる人気で、封切り後2年経過しても根強いファンが多いことを改めて実感した。映画のストーリーが林業のロマン、奥深さを紹介する内容にもなっており、林業がテーマの映画自体が数少ないうえに、当地がロケ地になる機会には本当に稀なことなので、今後も、この希少なチャンスを逃さずに、地域おこし、林業振興にこの映画を活用して盛り上げていこうという意識を大会企画・運営者・スタッフで共有できた。</p> <p>【②花谷氏】1回約1時間の講演を午前・午後の2回開催したが、いずれも20～30名の参加者があり、上記①同様に封切り後2年経過しても根強いファンが多いことを改めて実感した。映画のストーリーが林業のロマン、奥深さを紹介する内容にもなっており、林業がテーマの映画が数少ないうえに、当地がロケ地になる機会が本当に稀なことなので、今後も、この希少なチャンスを逃さずに地域おこし、林業振興に、この映画を活用して盛り上げていこうという意識を大会企画・運営者、スタッフで共有できた。</p>			
36	泉佐野歴史発掘委員会	大阪府泉佐野市	①辻 雅之 ②上田 慎也 ③生一 知哉 ④原 大 ⑤橋場 夕佳	①能楽師 ②能楽師 ③能楽師 ④能楽師 ⑤能楽研究者	地域の文化資産を発信する～蟻通神社から～	平成28年9月19日 (月)
	講演内容			研修成果		

	講演内容	研修成果
36	<p>蟻通神社を会場にして「地域の文化資産を発信する」をテーマに、能楽関係者と郷土史家の6人によるパネルディスカッション形式の講座を実施した。</p> <p>【テーマ1】蟻通神社の歴史、伝承、宝物を発信する 社名の由来や、紀貫之の故事、世阿弥の能「蟻通」、指定文化財などを如何に発信するか</p> <p>【テーマ2】地域をテーマとした能と地域のとりくみ 地域を主題にした能(「蟻通」など)の特性と、その地域で公演にとりくむ活動から如何に学ぶか</p> <p>【テーマ3】能楽の魅力ー能楽師からみて シテ方、ワキ方、囃子方が能を演ずるとき大切にしていることを語っていただく。</p>	<p>長滝村と蟻通神社に紀貫之の故事があり、世阿弥の能「蟻通」となっている。冠の淵を貫之の史跡として護り、江戸時代初期には境内で演能している。また、雨乞いの御礼として神社を整え、舞、和歌などを奉納してきた。今、これらは広く発信すべき資産であることが共通認識となった。</p> <p>能「蟻通」の難しさと魅力を他の能と比較することによりわかりやすく解説された。夫々の能楽を演じるとき、演者(シテ方・囃子方)としての工夫があり、実技を入れて話された。観客の見所が具体的にわかり、能楽に対して一層の理解が深まった。</p> <p>各地で薪能が催されているが、それには地域住民と能の愛好者、能楽師が一体となって取り組む、それが地域づくりに繋がることが共通の認識となった。</p>

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
37	こなんイモ・夢づくり協議会	滋賀県湖南市	鈴木 高広	近畿大学教授	～イモが日本を救う～芋エネルギー勉強会	①平成28年9月28日(水) ②平成28年12月14日(水)
	講演内容			研修成果		
<p>①地球温暖化の原因である石油や石炭や天然ガスの代わりになるものに、いろいろなバイオ燃料があり、その一つとして小学校で栽培の協力をいただいているサツマイモを燃料とするメタンガスの発酵のしくみと、そのメタンガスを利用して発電する方法を学習しました。その後、実際にペットボトルを利用して、サツマイモとメタン菌とでメタンガスの作り方を学習しました。(菩提寺小学校では実施せず)その後、メタンガスでフライパンを温め、目玉焼きを作り実際のメタンガス(先生側で事前に準備)の利用方法を学習しました。最後は、ガス発電機で蛍光灯や扇風機を動かし、発電体験をしました。</p> <p>②初めに、地球温暖化が加速している要因についての説明があり、現在地球温暖化防止のために行われている事業が逆に温暖化を進める要因となっているとの説明がありました。地球から化学燃料がなくなる前に、人類が酸素欠乏のために滅亡してしまう。それが約1000年後の西暦3000年頃。地球温暖化と酸素欠乏を止めるには燃料作物の大量生産しかなく、食糧問題とエネルギー-燃料作物の問題は全く別問題であるとも説明がありました。大量の燃料作物を栽培するための今までは違うサツマイモの栽培方法の説明や、湖南市、福島県、沖縄県での栽培の取り組み状況も紹介されました。メタンガス発酵や発電の仕組みの説明もあり、小型のメタンガス発電施設の必要性もお話しされました。</p>			<p>①昨年度から、サツマイモの空中栽培(大量栽培)の協力をいただいている小学校ですが、栽培したサツマイモがどのようにして電気になるのかを理解してもらえないままの栽培協力となっていました。今回先生に芋発電について説明していただき、また実際に子どもたちに体験してもらうことで、芋発電への理解はもちろんのことエネルギー問題への理解も深まったと思います。この経験を他の学年や他の小学校、また家庭で話してもらおうとたくさんの方に芋発電について興味を持っていただき、栽培協力の輪も広がっていくことと思います。</p> <p>②地球温暖化を止めるための事業が逆に地球温暖化を進めているという説明を聞き、地球温暖化を止めるためには、あらゆる角度から検証をしていかなければならないのだと気づかされました。燃料作物で発電を行うことで、地球温暖化を止めることができる。そのためにまず、燃料作物を大量に生産する必要があることがご理解いただけたと思います。必要性をご理解いただいたことで、積極的に栽培の協力もいただけるのではないかと考えています。また、小規模設備で発電・発酵の重要性についても学び、各地域で取り組める可能性も考えていただけたらと思います。そして、質疑応答の時間では、参加いただいた方々から燃料作物で発電することのデメリットのご指摘もあり、地球温暖化を止めるためのより良い方法の検討も必要になるとの理解もありました。参加いただいたみなさんに芋発電を広めていただくことで、栽培・発酵・発電についての協力機関の輪も広がっていくことと思います。</p>			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
38	多気の郷元気づくり協議会	三重県津市	三浦 佑之	千葉大学名誉教授	郷土を愛する心を醸成し、併せて文化的意識の向上と健康の増進を図る	平成28年11月5日(土)
	講演内容			研修成果		
<p>【古事記とは何か】 わが国最古の文献である古事記の、成立の根拠、伝承、年代等について、古事記「序」の記述をもとに解説。また、「記紀」として並び評される「日本書紀」の特徴とその相違点などについて、写本の写真などの資料を示しながら引用して解説。 【伊勢神宮の創始記をめぐる神話】 当多気地区の地域的なじみの深い伊勢神宮に焦点を絞り、古事記の中に取り上げられる記述に基づきながら、神々の世界の概要について紹介。神話の読み解き方、楽しみ方なども易しく解説。 【出雲大社の創始記をめぐる神話】 伊勢神宮と対をなし、正反対の性格を持つと伝えられる出雲大社の成り立ちに関する神話に基づき、神話世界の陰陽などの構造や仕組みを解説するとともに、遷宮により現在も守られ続ける社の持つ意味なども紹介。 【伊勢をめぐる伝承】 伊勢の地にゆかりのある神話2話を紹介しながら、神話の中の神々の持つ人間性の描写などにも触れ、古事記の面白さ、魅力を解説。</p>			<p>当美杉町多気地区出身で著名な国文学研究者である三浦佑之先生をお招きして講演会が開催できたことは、先生の専門分野である上代文学、古事記に関する講話を拝聴できただけでなく、当地域外からの来場者に対する地域のPR、地域在住の者にとつての地域再評価という観点からも大きな成果があった。講話は大変わかりやすく、上代文学になじみのないものにとつても興味もてるよう砕いた内容で、来場者は三浦先生の語られる神々の世界のロマン譚に聞き入った。三浦先生は、当地をロケ地として撮影された映画「WOOD JOB! 神去村あなあ日常」の原作者で直木賞作家の三浦しをんさんの父親でもあり、その面からもアピール度が高く、会場定員の関係で来場者数の制限とした150人は募集開始早々に満員となるなど、非常に反響の大きな講演会であった。</p>			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
39	釧路市女性団体連絡協議会	北海道釧路市	渥美 由喜	東レ経営研究所 ダイバーシティ&ワークライフバランス研究部長	企業にとってワーク・ライフ・バランスに取り組むメリットとは・・・	平成28年9月16日(金)
	講演内容			研修成果		
<p>少子・高齢社会にあつては、働く環境がよくなければ優秀な人材を確保できない。働く人の多様性・多面性がこれからの企業経営に欠かすことができない要素だが、それは家庭・職場の地域活動で育まれる内容も多く、これからはそのように動ける働き方ができる職場になっていくことが大切である。 働き盛りの介護離職を防がなければならない。また、妻の働き方は正規職員で定年まで働くこと一家の総収入は大きい。今後は、このように合理的に考える人が増えてくる。男女ともに人材の確保には、以上の背景を理解しないといけない。常に業務改善、人心掌握を積み重ねていけば企業としての体制強化につながる。</p>			<p>少子・高齢社会において不足する労働力として女性への期待がある。女性の社会進出には、男は外で働き、女は家を守るという性別役割分担意識が色濃く残る現状では、その意識改革をしなければ進まない。講師からは、性別役割分担は時代背景が違ふ、夫婦共働きで生涯における一家の収入を増やせる。介護も男性も関わらざるを得ない、慣れない女性活用するための職場での指導の在り方等を具体例を示しながら講話をいただいた。今回の講演会では、男女平等参画社会に向けて、そして、企業の体力強化への意識改革の成果が得られた。</p>			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
40	さっぽろ縄文探検隊	北海道札幌市	松本 直子	岡山大学教授	さっぽろ縄文探検隊3周年記念講演会「戦争は人間の本性か・縄文時代から見えてくること」	平成28年10月22日(土)
	講演内容			研修成果		
<p>日本列島における縄文時代の暴力による受傷人骨は、世界で言われている14%を大きく下回り、1.8%程度と極端に低い。この結果は現在有力である、「戦争は人間の本性だ」という説を覆す可能性がある。今後は、さらに研究を進めていく必要があるが、戦争は制度として発生したもので、暴力による闘争を押さえる仕組みを持つ文化的システムも存在していることから、縄文時代もそうだった可能性が充分うかがえる。</p>			<p>会場を埋める200人の聴衆に対して、考古学における最新の学説を岡山大学の松本直子教授に紹介していただいた。世界では、ヨーロッパや西アジアから徐々に農耕が始まるが、それを選択せず狩猟採集生活を継続した縄文文化の特徴と希少性を示すことにより縄文文化に対する深い関心を呼び起こすことができたほか、郷土に残る遺跡や遺物に対する価値を引き上げることができたと考える。</p>			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
41	特定非営利活動法人 かなぎ元気倶楽部	青森県五所川原市	矢部 三雄	石巻専修大学 客員教授	津軽海峡ヒバサミット2016 in 津軽	平成28年10月1日(土)
	講演内容			研修成果		
<p>「わが国で最初の森林鉄道はなぜ津軽だったのか」</p> <p>①森林鉄道とは ②森林鉄道の誕生まで(国有林の成立)</p> <p>③御料林の成立 ④特別経営事業と森林鉄道誕生前夜</p> <p>⑤津軽森林鉄道以前 ⑥青森ヒバの歴史 ⑦森林軌道の誕生</p> <p>⑧津軽森林鉄道の計画 ⑨津軽森林鉄道の建設</p> <p>⑩津軽森林鉄道の消長 ⑪二宮英雄土木主任の悲劇</p> <p>⑫下北半島の森林鉄道 ⑬戦時下の荒廃と復興</p> <p>⑭森林鉄道路線別延長ランキング ⑮宮林局建設路線延長ランキング</p> <p>⑯森林鉄道からトラック運材へ ⑰森林鉄道の終焉</p>					<p>2014年より下北～江差～津軽とつないだ津軽海峡ヒバサミットは、三半島の共通資源であるヒノキアスナロ(ひば)について各地独自のテーマで展開し、津軽編は日本で最初に敷設された津軽森林鉄道と青森ヒバ生産の記憶を巡りながら軌道敷を歩く「奥津軽トレイル」の取組を広く知らしめることができた。特に、フィールドである国有林側から林野庁、森林管理署が積極的な取り組み支援を表明した。</p>	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
42	一般社団法人 永野建築士会 佐久支部	長野県佐久市	三浦 敏伸	株式会社レーモンド設計事務所 代表取締役	建築家が考えるまちづくりについて	平成28年10月29日(土)
	講演内容			研修成果		
<p>アントニオ・レーモンドは1919年12月ライトと共に帝国ホテルの仕事で来日し、1923年レーモンド建築事務所を設立。今日まで93年間レーモンドの設計思想(哲学)を継承して創り続けて来た作品を通じて、個々の建物が如何に“まちづくり”に大切であるか、ご講演いただいた。</p>					<p>レーモンドの哲学『我々の設計原則は人間尺度によって、より単純に、より直截に、より経済的に、ここから創ることにある』を大切に、建築家として地域の皆さんとの交流連綿を通じて、より良い郷土を創るパワーを頂きました。</p>	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
43	城北地区まちづくり協議会	三重県亀山市	志村 和浩	合同会社ピリリ 代表	『城北地区まちづくり計画』作成のための研修会	①平成28年10月16日(日) ②平成28年12月3日(土) ③平成29年1月7日(土) ④平成29年2月4日(土)
	講演内容			研修成果		
<p>『城北地区まちづくり計画』作成研修会 計4回の研修により、作成プログラムを事項書に明記し進めた。</p> <p>【第1回】 教材:『城北地区まちづくり計画』の策定に向けて(パワーポイント) ・そもそもまちづくし計画とは？仕組みを学ぶ ・計画策定に向けての進め方</p> <p>【第2回】 資料:城北地区まちづくり住民アンケート ・地域住民から取ったアンケートを元に今後の課題と目標を決定 ・目標設定『人付き合いの出来るまち』</p> <p>【第3回】 教材:取り組むべき項目(項目、内容、時期) ・目標達成のため、各部署ごとに具体的活動内容を決定① ・福祉部、子供会育成部</p> <p>【第4回】 教材:取り組むべき項目(項目、内容、時期) ・目標達成のため、各部署ごとに具体的活動内容を決定② ・文化教養部、環境衛生部、体育推進部、防災防犯部 上記の活動を講師の指導のもと行った。</p>					<p>地域の近未来に対する関心を高め、目標を作成することにより、地域住民により積極的な参加を促し、より柔軟な発想、意見を取り入れ、活力あるまちづくりに取り組み、幅広い年齢層の理解を深めることにより地域の活性化及び地域住民の連携を深めることを目的とし、今後の事業計画に反映していく。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
44	一般社団法人 ピオトープ	和歌山県印南市	①南 敏行 ②玉井 済夫	①熊野自然保護連絡協議会 会長 ②公益財団法人天神崎の自然を大切にすることを会業務執行理事	トンボを自然環境の指標とし環境保全活動を基調としたエコツーリズムや地域活性化の取り組みを次世代に継承する	平成28年10月2日 (日)
	講演内容			研修成果		
<p>【①南氏】和歌山県のトンボ相や県内のトンボ多産地の説明に続き、熊野自然保護連絡協議会の活動について講演。</p> <p>多分野の講師による自然観察会、研究発表会を実施している。子どもたちには自然の中で過ごす時間が、楽しく貴重なものであることを実感してもらいたい。そのためには、私たちが一緒に楽しく暮らす機会を持ち、興味を引き出し、育てていかなければならない。秘境と呼ばれる熊野地方にも全国的な傾向である「人間生活優先」の開発が進行しつつある。これからの自然保護は、この開発の波を止めるのではなく、その波と同調しつつ、最善策を考慮しながら取り組んでいく必要がある。未来に「すばらしい自然」が継承されることを期待する。</p> <p>【②玉井氏】今年で42年目となる田辺市天神崎の自然とナショナル・トラスト運動について説明、現在取得した土地を活用した地域活動について下記のとおり講演があった。</p> <p>土地の取得は森林が中心であるが、その中には水田跡があり、現在は湿地としての環境が維持され、水生植物や水生昆虫などの生育・生息地である。そして、この周辺には、大変広く平らな蔵があり、田辺湾全域とともに見事な景観となっている。この蔵は、豊流黒潮の影響を強く受けているため、干潮時には亜熱帯・熱帯系の各種の生物が豊富で、絶好の自然観光地として多くの人々が訪れている。</p> <p>現在、天神崎の自然を大切にすることは、土地(森林)の取得とその自然の維持、訪れる学校や団体への自然解説や案内、清掃活動(陸域・海域)、子どもの絵画展などの事業を進めながら、自然の大切さを人々に伝えている。2015年、環境省は、串本町からみなべ町千里の浜までの海岸域と沿海水域を吉野熊野国立公園に編入した。これにより県立自然公園であった天神崎も国立公園内となった。</p>			<p>①南講師は、大会委員長の和歌山大学養父教授と共に、橋本市の棚田で前日開催されたエクスカージョンにも参加し、地元住民を含む県内外からの参加者約30名に対して、自然環境保全の取組について講話され、棚田の保全活動の重要性について参加者の認識を高めた。また、大会では、県内の環境の変化に伴うトンボの種類の減少などを解説され、自然環境保全への地域での取組の重要性を講演しマスコミ等でも取り上げられた。</p> <p>②トンボの事に関しては専門外であることを前置きし、40年を超える地域での環境保全の取組【トラスト運動】について講演を行った。良好な景観、自然環境、生態系を未来へ残すことの重要性が、地域全体で理解される中で、子どもたちへの境域活動等、様々な取組へと展開し国立公園へも編入された。天神崎を守ってきたことが地域の資源を守ることになり、観光等の資源としても地域の発展にも貢献できることにつながったとの講師の思いを参加者が共有することができた。</p>			
45	米沢街道地域 づくり検討会	新潟県関川村	前山みよこ	「おしよしなガイドの会」副 会長兼ガイド	関川村・渡辺家(三左衛門様)と上杉家との関わり	平成28年10月5日 (水)
	講演内容			研修成果		
<p>講師からは米沢藩の9代藩主(上杉鷹山公)と財政支援を通じて親交のあった渡辺家(通称:三左衛門様)との数々の交流エピソードに忠実に基づいた解説と渡辺家所有の鷹山公の直筆の手紙などの生物を実際に拝見するなどして、わかりやすく伺った。また、歴史教室では、歴史の話のあとに、観光ボランティアガイドを学習中の生徒に対して、ガイドをする場合の注意事項を自分の体験事例を交えて教えていただきました。</p>			<p>この度の研修で、未来を担う関川村の子どもたち等に「世界的に有名な鷹山公から渡辺家が感謝されていたこと」「現在も心ある米沢市民からは当時の財政支援を感謝されていること」を知ってもらったことで、誇れる文化、誇れる歴史があることを実感し、ますます観光客に対して伝えたい思いが増加し、観光ガイドの勉強やおもてなしの心の向上につながったと思われる。また、郷土愛や村民同士の絆がさらに強くなって、自立の村づくりを進めるうえで大変良い研修でした。</p>			
46	RUN ABOUT JAPAN	愛媛県伊予市	小谷 修平	スポーツ医学ランニング コーチ	故障しないマラソンで健康維持 「マラソン人口を増やして地域を盛り上げよう」	平成28年10月12日 (水)
	講演内容			研修成果		
<p>市民ランナーに対して、自分の体を良く知ってうまく付き合って長期にわたってランニングライフが楽しめるよう「マラソン人口を増やして地域を盛り上げよう!」→故障予防と記録向上に役立つトレーニングセミナーへと題して、24時間走日本代表小谷修平氏から医学書から読み取れるランニング知識、自分の体の知り方と上手な付き合い方、故障を少なくする体のつくり方、レース中の補給の在り方々々、講師の豊富な知識から情報を提供していただきました。講演後地元ランナーとの意見交換の場では2時間を超える熱心なやり取りが行われていました。</p>			<p>講演会を通じて、日本のトップレベルを維持するために様々な点(柔軟性・食事等々)で注意していることが分かり、すぐにでも個人的に取り組めることが多くあるように感じた。ちょっと気を付けることで故障なく長期間スポーツと上手に付き合っていくことができるように思えた。今後この講演をきっかけに愛媛において健康寿命の延長に貢献できればと思います。</p>			
47	特定非営利活動法人 とす市民活動 ネットワーク	佐賀県鳥栖市	高橋 由和	NPO法人きらりよしま ネットワーク事務局長	住民総参加のまちづくり 地域再生～新しいまちづくりのカタチ～	平成29年2月4日 (土)
	講演内容			研修成果		
<p>・きらりよしまの設立経緯と地域経営のイノベーション 形骸化するコミュニティの課題や組織力をどのような形で改革したか ・求められる地域づくりに必要なシステム(仕組み) 地域住民が地域づくりの位置役を担い、やりたいことをやるべきことに変えていくには、なぜそれをするのかの合意形成と担い手の育成、資金力、情報の受発信やネットワークのシステムはどうあるべきか ・生活に根差した実践 地域の現実を把握し、課題解決のPDCAを回し、生活に根差した事業をどのように組み立てていくか。また、地域住民はどのように運営に関わっていくか。 ・協働の支援体制 様々な壁にぶつかる地域づくりの支援を行う行政や中間支援の支援体制はどうあるべきか</p>			<p>参加者が予定より少なかったが、市民活動や自治会、行政担当者、市議など、地域再生に係る当事者としての熱意が感じられ、講師もその熱心な姿勢に驚かされていた。①仲間外れを作らない年代をつなぐコミュニケーション作り。②各年代層に役割を与え、過度な依存をしない環境作り。③一人一役から始め、頑張っている人を褒め、応援する環境作り。④住民への説明はあきらめず行い、助け合いで生きていく地域づくり。以上四つの重要性を気づかされ、各々の今後の活動にできることから活かしていくことができる。</p>			
48	特定非営利活動法人 生活習慣改善センター	宮城県仙台市 青葉区	池戸 重信	宮城大学名誉教授	新食品表示制度と栄養表示	平成28年10月10日 (月)
	講演内容			研修成果		

<p>48</p>	<p>年々豊かになる食生活において、外食、中食の食費に占めるウェイト(食の外食化率)が45%に増加し、生活習慣病が増加していることについて「日々の食生活のあり方」などの説明があった。 食品表示法の制定他、平成32年4月からの栄養成分の義務化を前にして、食外部化の推進、外食、中食、内食の組み合わせ、消費者個人の適正な栄養成分理解、表示されない内食についての栄養成分量の把握等、正しい教育、啓発の必要性が示された。外食、中食の専門、栄養学の専門、食品表示の専門家のパネリストのディスカッションでは「健全な食生活の実現」に向けた方策を考えた意見が出された。</p>	<p>池戸重信先生から、新たな食品表示と栄養表示の必要性が示され、さらに理解が進んだ。「年々豊かになる食生活において、『食の外食化率』が45%に増加し、生活習慣病が増加している現状を知ることができた。さらに、平成32年4月から始まる栄養成分の義務化を前にして、外食、中食、内食、消費者個人の適正な栄養成分の理解、表示されない内食についての栄養成分量の把握など、「健全な食生活の実現」に向けた対策を、正しく理解することができた。特にパネルディスカッションにおいて、統計的な解析、実践的な「3・2・1弁当法」が参加者の共感を得ました。</p>
-----------	--	---

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
49	公益財団法人 妻籠を愛する会	長野県南木曾町	①大住 克博 ②小椋 吉範	①鳥取大学教授 ②日本両棲爬虫類学会員	第41回妻籠冬期大学講座	平成29年2月4日 (土)
	講演内容			研修成果		
<p>①木曾の森林は、江戸初期に乱伐され消えかけた木曾地方のヒノキを中心とした温帯性針葉樹林だが、幕末の保護により再生され現在に至っている。世界的にも貴重なこの針葉樹林を「木曾悠久の森」として300年以上の長期計画として守っていくことは重要である。</p> <p>②ヒダサンショウウオ・コハネサンショウウオの採集は県内でも下伊那と木曾地方に集中している。平成28年4月に馬籠峠のアンコ沢でヒダサンショウウオの幼生と卵のうを確認。渓流に生息するので、土石流等で減少していく。山を守っていくことが重要である。</p>			<p>両氏とも木曾の自然についての貴重な講演であった。妻籠は昭和51年に重要伝統的建造物群保存地区に選定されたが、その範囲は、周囲の環境と一体をなしているとし、馬籠峠から三留野境の戦沢までの1245haを保存してきた。妻籠宿は周囲の自然環境があつてこそその理念のもと、半世紀にわたり守ってきたことの意義を実感することができた。さらに50年100年と進めていく必要性を感じた。</p>			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
50	伊計島の11班	沖縄県うるま市	林 弘樹	ものがたり法人 FireWorks 代表	地域の未来をつくる人材の発掘と育成に成功した 実践例を学ぶ	平成28年10月30日 (日)
	講演内容			研修成果		
<p>今回の撮影をした三島は、「地域の課題はない。不満はない。いい街」という声があり、これまでの地域づくりテーマのワークショップ時に出る声とは正反対のスタートだった。しかし、脚本座談会で「三島について」を調べた時に、明治から昭和50年代頃に、今の三島の豊かさを築いている運動があつたことを知る。また、舞台となつた寿楽園も子供の時から知っているけど、歴史価値は知らなかった。そこを映画作りの過程を通じて、地域の資源について気づいた。また、「なぜ、地域で人が育たないのか」について、「地域＝家族」と表現した。近くにあり、面倒くさい存在。関係ないように見えるけど、そこにどう、向き合っていくか、そこに立ち止まって考えてみる必要があると、これまで12年の地域と関わって気づき、映画にメッセージとして込めた。</p>			<p>映画を見た後、それぞれの家族との思いについて語り合うことから始めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「よく地域キャッチフレーズに『助け合う地域』とあるけど、実際には抽象的過ぎてイメージが付かなかつたけど「家族」という視点から考えると分かりやすい。 ・地域に参画しても、本当に面倒くさいし、映画のように「感うことも」「感いながらも、関わっていくこと」そこを理解しあえる仲間がふえていくことが地域を考える人材に繋がるというヒントをもらった。 ・「これまで役所の職員として『市民目線』を心がけて業務を続けてきたけど、何かしつくりと来ないものがあるという違和感があつた。今日は、人生の指針を教えてもらった」という声があつた。 <p>事例を聞くというよりは参加者ひとりひとりが自分事として向き合い、「これまでの自分」「今の自分」「これからの自分」という自分なりの答えを見つけていく時間となつた。</p>			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
51	一般社団法人 みどりの地球促進協会	茨城県古河市	①宮田 貞夫 ②河口 秀樹 ③北谷 勝秀	①公益財団法人茨城県中小企業振興公社フュー デイナー ②認定NPO法人自然環境 復元協会事務局長 ③NPO法人2050代表理 事	無人駅を活用して連携事業で地域の振興を考え る	①平成28年12月19 日(月) ②平成29年1月18 日(水)
	講演内容			研修成果		
<p>高齢者にも雇用の場を、また、地域づくりと雇用の創出事業を念頭に3名に講師の依頼をお願いしたところ、快く引き受けていただきました。</p> <p>宮田講師より、無人駅の活用方法の一例として“街がないならつくればよい”“新しい挑戦が人を変える”カスミガプロジェクトを紹介、最初は人が集まらなかったが、後に自主開催で映画製作及び植物育成のガーデニング等企画して街の発展に貢献。「集める」から「集まる」へ転換し、顧客が「楽しい」「面白い」「懐かしい」と思える取り組みを継続的に実施する。20%:80%＝パレートの法則で友好的・協力的に人が集まる。カスミガ商店街では、ライブヤスボー、落語・大道芸鑑賞・酉の市で成功している。</p> <p>河口講師より、地域コミュニティの現状は交通・通信を使用して新しいコミュニティを構築し、情報活動の一環としていつどこでだれが何を実践しているか、「農・林・水」産業の団体との連携が必要で常に活動の改善が大切であるとお話があつた。さらにコミュニティビジネスで次世代の人材を育成することも重要であると述べられた。</p> <p>北谷講師より、天災・人災・貧困・戦争・テロ・水と食料不足・不平等から世界が今必要としているのは、貴方の使命【ミッション】、情熱【パッション】、恵まれぬ人、モノへの思いやり【コンパッション】であるとお話があつた。更に社会的地位にある人は社会に貢献する義務がある【ノブレスオブリージ】も大切とのことだった。3名の女性に学ぼう【愛と勇氣】マザー・テレサ【思いやりと国際性】金子みすず【人類愛とビジョン】坪田愛華。世界中の女性が手を結ぶことが重要であり、世界平和を守るために地球環境を守りたいですと結ばれた。</p>			<p>この茨城県西の北、上野原地と無人駅「JRやまと駅」に通ずる林道の周辺には太陽光発電施設が増え、その反面この地域は国道沿いでも人口減で陸の孤島にさらされ、活動的な若者の定住が望まれ、地域に根差した、より生産的な地域おこしが望まれてきた。大和駅近くに、病院・ショッピングセンター、ほか、大和駅側近に通勤者の利便性から子供預かり保育所・図書館・美術館として国際交流学習館、自然環境を活かした地域づくり等が提言された。少人数とはいえ、このシンポジウム・質疑応答の中で感じられたことは大きな成果に繋がつた。</p>			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
52	鈴田市まちづくり推進会議	茨城県鈴田市	貝塚 茂樹	武蔵野大学教育学部教授	道徳の教科化ってなに？それでいじめや不登校がなくなるの？	平成29年1月29日 (日)
	講演内容				研修成果	
「道徳の教科化って何？それでいじめや不登校がなくなるの？」と題して、情報通信技術の発展と子どもの生活、深刻な本質的な解決に向けて、子どもを取り巻く地域や家庭の変化、諸外国に比べて低い高校生の自己肯定感や社会参画への意識、共同体の解体と個人化する社会、高度経済成長以降の社会・経済優先、自己優先の時代、家族の解体、出生率の低下、道徳性と学力は相関する、人間とは、道徳とは、他社とは誰か、などから現在の子どもたちを取り巻く環境や道徳教育の必要性等の話を前半で頂き、後半では、道徳教育の教科化の必要性の話を道徳教育の実施状況、道徳教育の課題と特別教科化が目指すもの、評価の方法などから学んだ。					講演は非常に熱のこもった素晴らしいものでした。道徳が教科化されるということは、ようやく「道徳」について真剣に考えられる時がやってきた、経済発展中心でどこか本質的なものが置き去りにされてきた日本が一度立ち止まって方向性を見直す時期に来ていると感じた方が多かったようです。道徳の教科化をきっかけに、学校も家庭も地域も皆一体となって考え、行動し全員で取り組んでいくことが今後の日本の社会がよい方向に進んでいくための大きな力となると確信しました。道徳を考えると、特定の価値観の押し付けになるのではないかと懸念しそうですが、そうではなく、一人一人が考えよう行動するかを模索することだと理解した有意義な時間となりました。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
53	自然体験クラブ Hoshino Nature's Way	福岡県八女市	戸高 雅史	野外学校FOS代表、登山家	とびだせ！星の探検隊 ～さあ！勇者と冒険の旅～	平成28年10月29日 (土) ～ 10月30日(日)
	講演内容				研修成果	
福岡県内の小学生を対象に『冒険』をテーマとして、一泊二日の宿泊体験を実施。その中で、世界の高峰に登ってきた戸高雅史氏に自らの体験を語っていただき、二日間の中で、学年ごとに設けられた冒険を体験し、自分にとっての『冒険』とは何なのかを考えてみるというキャンプを実施しました。					戸高氏の登山体験は極限の体験をされた生の声であり、私たちが普段生活している環境とは全く違う中での登山ということが子供たちにもよく伝わったと感じています。また、その中で自分とどう向き合っていくのか、本当の勇気・本当の冒険とはなんなのかを参加した子供たち自身が考えるきっかけとなる良い講演だったと感じています。	
講演では、まず戸高氏本人に、自ら世界の山々に挑んだときの気持ちや、実際に登ったときの感想を語っていただきました。また、世界の高峰に登って行くうちに日本にも素晴らしい山や自然がたくさんあることに気づき、現在は日本の素晴らしい環境を伝えていくことなどをスライドを交えて講演を行っていただきました。また、自然に入ると自然の中の素晴らしい音楽が聞こえてくるという実体験をもとに、打楽器やギターを使い一緒に音楽を楽しむ体験も行うことができました。					講演の時間だけでなく、一泊二日の全プログラムを戸高氏に参加いただき、夜のキャンプファイヤーを囲んだ音楽の集いや、初日・二日目の登山体験などを通して直接子供たちと接していただいたことにより、より多くの冒険体験や登山への思いを伝えることができたと思います。この体験をもとに、参加者それぞれの様々なステージで『冒険』に出会ったときの糧にしてみたいと感じています。	
また、初日は全員で登山を行い、二日目は学年ごとに設けられたコースでそれぞれの『冒険』を戸高氏と一緒に体験しました。高学年は一人で登山を体験してみようという事にチャレンジしました。						
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
54	いいやまブナの森クラブ	長野県飯山市	山田 皓	炭焼き職人	「炭焼きの技術指導・体験」を地元で炭焼きを続けている職人を招いて実演・解説を行う。	平成28年11月9日 (水)～11月11日 (木) 平成28年11月12日 (土)～11月14日 (日)
	講演内容				研修成果	
活動の内容は「炭焼きの技術指導・体験」とし、地元で炭焼きを続けている職人を招いて、実際に炭焼きを体験、学ぶ場を提供する。実際に職人と一緒に作業をすることで、興味を持ってもらい、技術の伝播や地域活性化につなげていきたいと考えている。昨年も炭焼き事業を行ったが、立込みからかき出しまで通しての参加者もあり、技術継承の場となっていると感じた。今年度も継続して事業を行い、今まで参加していただいた方への技術活用場としてはもちろん、地元の子供たちにも伝統技術に触れる機会を作りたいと考える。本事業を通し、地元の素晴らしい自然環境を感じてもらい、彼らが大人になったとき、地元を誇りに思い、地域の原動力になるところを期待する。					参加者は地元の方から、観光で訪れていた方まで様々だった。実際に職人の作業をしている姿、また一緒に作業を体験していただくことで炭焼きを知らなかった方にも興味を持ってもらうことができたと感じる。特に地元の方でも、若い世代では炭焼きを知らない方が多く、初めて体験する炭焼きに驚きと新鮮さを感じたと感想を頂いた。炭焼きを体験することは、炭材のある豊かな森や地域の歴史にも目を向けることになる。今回、設定日に平日も多く、また降雪も重なり地元の子供たちの参加は少数であったが、伝統技術に触れる良い機会になったのではないかと感じる。今後も炭焼き事業を継続し、技術の伝播してこの地域の素晴らしい自然環境に目を向けていただくきっかけとしたい。	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
55	NPO法人 山の遊び舎 はらぺこ	長野県伊那市	伊勢 真一	映画監督 いせフィルム代表	「いきるかたち」～かかわりがはぐむいのち～	平成28年12月11日 (日)
	講演内容				研修成果	
講師が製作した映画「風のかたち」(サマーキャンプに参加する小児がんの子どもたちと彼らを支える小児科医らの10年を追った記録映画)の上映後、制作に至った経緯、支える医師たちの思い、撮影の中で培われていった子どもたちとの関係性、そして講師自身もまた子どもの育ちを見守る一人として記録を撮り続けた話など。また、どの子どもにおいても成長過程で様々な経験をさせることが重要であるなどの話。					現在小児がんは不治の病ではなく、8割方治る病気であるという現状を知ることができたとともに、多くの小児がん患者がいのちと向き合いながら個々の希望や夢に向かって進んでいる姿に子どもたち自身のたくましさを感じることができた。また講師を含め子どもたちを支える周囲の大人たちの姿から、地域での身近な子どもの育ちにおいても家族単位にとどまらず社会単位での支えが成長過程での充実さに繋がることを学ぶことができた。	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
56	石畳を思う会	愛媛県内子町	小山 典男	伝統工芸士	板締め染色による新たな文化の創造	平成28年11月5日 (土)～ 11月6日(日)
	講演内容				研修成果	
<p>村山大島紬の技術を継承する小山織物の3代目の小山典男氏は、和装だけにとどまらず様々な製品への展開を模索し続ける伝統工芸士である。今回、古代染めの1つである板絞めの技法と魅力についてお話しいただいた。板締め染色は、柄に合わせていくつもの溝が彫られた板と板の間に布を挟みかさね、それをボルトで強く締め付けた状態で染料につけるやり方である。溝の無い部分は、染まらず白く残り、溝の部分は染料の色がつき、柄を合わせながら織ることにより、花柄や密な幾何学を表現される。板締め染色は計算と偶発の融合により、予想外の柄ができることも魅力の一つのこと。石畳地区の景観保全運動とあわせて、板締め染色を根付かせてはどうかとの提案を頂いた。</p>					<p>2日目は、実際に板締め染色のワークショップを行った。綿100%のTシャツ、トートバック、日本手ぬぐいなどを持ち寄り、それを折りたたんだり、ねじったりして板に挟み込みボルトで固定し、染色した。美しい藍色に思いがけない柄、自分で染めたということで参加者は大満足。「次はデザインをこうしたい」とか「タグや紙袋をデザインして売っていい」と前向きな意見が相次ぎ、一緒に参加したデザイナーやコピーライターと組んで商品化に向けた取り組みを進めていくことになった。これまでの活動に加え、伝統産業の継承と新しいモノづくりに挑戦することで、さらに魅力ある地域づくりに発展していくものとする。</p>	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
57	上牧区	長野県伊那市	園原 健弘	バルセロナオリンピック競歩代表	オリンピックアスリート「園原健弘さん」の生き方に学ぶ (体育学習および地域里山体験道を歩く)	平成28年11月10日 (木)
	講演内容				研修成果	
<p>【講演】 ・世界のアスリートを参考に生き方の特徴等分かりやすく解説。 ・園原さんの体験談：小学生時代は体も小さく、心臓が弱く授業は見学していた。努力することにより誰でも一流になれる。「誰でも夢をかなえることができる」10,000時間の努力で一流になれる。 【実践指導】 ・5、6年生対象に、正しい走り方、アップ走法等生徒ひとりひとりに手を貸しながら分かりやすく指導していただいた。子どもたちが皆生き生きと行動していた。 【道路使用実践指導】 1・2年生 1,300m 3・4年生 1,700m 5・6年生 2,400m のマラソン大会 子どもと一緒に走り、激励し、走り方の指導をした。 【意見交換会】校長室にて実施</p>					<p>・自分の体験を交えて分かりやすく説明し好評であった。子どもたちも一流選手を身近に感じ、将来の参考になったようである。 ・5、6年生の実践指導では、小学生を指導することに慣れている感じで、子どもも明るく、元気に行動した。 ・マラソン大会では、職員も今までの練習では歩いてきた子どもたちが、真剣に走り、予想したより短時間で完走し感激していた。 ・マラソン終了後、子どもたちに囲まれサイン攻めにあった。 ・将来、園原さんのように競歩をしたいと夢を語る子どもがいた。 ・伊那北小学校のアドバイザーとしてボランティア活動団体「学校応援団」のメンバーをお願いし、快く受けていただいた。来年度は陸上選手の指導もお願いした。</p>	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
58	沖縄フェスタin 四国実行委員会	愛媛県松山市	①村上 佳子 ②玉城 ちはる	①琉球古典音楽野村流音楽会教師 ②沖縄三板協会講師	「ふるさとを離れて住むこと ～沖縄に魅せられて移住しておもうこと」 沖縄三板ワークショップ	平成28年11月23日 (水)
	講演内容				研修成果	
<p>愛媛県松山市出身で、現在沖縄に移住して14年、沖縄の民謡の世界に入って教師・講師として活動している村上佳子さん講演会。沖縄に魅せられて移住を決意したところから、沖縄の伝統芸能にはまり、さまざまな恵まれた出会いの中で今があるという「生きる力」にあふれた講演であった。沖縄への転入者数は約2万5千人いるが、ほぼ同数が転出もしている。移住者の8割は3年以内に本土に戻るといふ沖縄定住の難しさの中で、「あこがれ」ではなく自分が「何をしたいのか」を強く持ち続けることが必要と話された。講演のあとには、沖縄移住を考える来場者との質疑応答、司会者とのトークセッション、沖縄三板協会の講師である玉城ちはるさんとともに沖縄楽器三板のワークショップ、演奏体験、最後はキャチャーシーでみんなが立ち上がり踊りました。</p>					<p>勤労感謝の日開催ということで、小学生から70代まで広い世代の参加をいただきました。講演を聴いて、楽器演奏を学び、ともに参加体験するという、内容の濃いイベントとなりました。また、2017年4月に四国愛媛で開催される「おきなわフェスタin四国」のイベントとしての説明もあり、これまでに活動のなかった「愛媛沖縄県人会」の新規発足、同時に沖縄県人以外でも気軽に入会できる「四国沖縄ファン倶楽部(仮称)」の発足構想を通して、今後ますます愛媛、四国内での沖縄ファンが連携、情報交換することにより、沖縄と愛媛四国との人、文化、モノの交流が増し、お互いが活性化していけることを確認しました。</p>	
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
59	公益財団法人 香川県老人クラブ連合会	香川県高松市	小川 全夫	山口大学名誉教授、九州大学名誉教授	平成28年度ぼちぼちクラブ香川「みんなの集い」～地域支援活動の推進について～ 「地域包括ケアシステムと老人クラブ」	平成28年11月16日 (水)
	講演内容				研修成果	
<p>高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けられるために地域で包括的な支援やサービスの提供ができるシステムの構築が進められている中、老人クラブや高齢者は何をすればいいのか。 高齢者になるということを具体的に考えてみるー2035年には誰とどこで暮らしているだろう、認知症にならないだろうか、どこで死を迎えるのか…。老人クラブは仲間づくりを通して、地域に根差した見守り支援の活動を行っており、地域包括ケアシステムの中に位置づけられた事業と重なり合っている。「見守り安否確認」「通いの場づくり」「ついで」の支援(ゴミ出しなど)」「介護予防健康づくり」など、市町村老連は速やかに市町村行政のすすめる新地域支援事業として認められるよう努めてみよう。</p>					<p>香川県下には1,327の老人クラブがあり、メンバーは日常的に地域の高齢者を支える友愛訪問活動やサロン活動、子どもの見守り活動や防犯活動、交通安全活動、地域奉仕活動など地域になくてはならない様々な活動を展開している。このクラブのリーダーが今回の参加者の大半であり、日ごろの活動がこれからの地域包括ケアシステムの一翼を担うものであり、地域支援活動が進められている今、まさに行政への理解が得られるような働きかけを行う意識づけをすることができた。 高齢者の特質や傾向を踏まえたうえで、「できること」を「できるだけ」しよう、「持っているだけ」なら「使えるように」しよう、「おひとりさま」でできないなら「おたがいさま」と考えよう、などと根本的な高齢者の活動にはずみがつく研修会となった。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
60	NPO法人 里山みらい	徳島県神山町	伊勢 達郎	自然スクールTOEC代表	気持ちに寄り添う子育てとは?～「認める」ことから始める子育て	平成28年11月26日(土)～11月27日(日)
	講演内容			研修成果		
TOEC設立から30年間、ずっと変わることなく大切にされてきた「聴く」という姿勢についてお話しいただいた。 【「聴く」とは?】 余計なことは加えず、ただそのままを「聴く」。自分を大事にされていると感じる最大の行為は「聴く」ということで、愛すること⇒聴くこと⇒これが認めるといことにつながる。ただ、願望を「聞き入れる」「許容する」とは区別が必要。 例えば、「殴る」という行為は集団では止められるが、「殴りたい(ほど腹が立っている)」というその気持ちは受け止めて認めてあげる。そのことで多様性を受け入れられるようになる。 また、「聴く」という行為により自尊感情が高まる。過剰な自信ではなく、健全な自尊心を育ててあげたい。 【会話のキャッチボール】 よくあるのが、背中で語っている「今、忙しい!」や「お母さん、お母さん、おかーさんっ!(私を見て!)」という感情のエスカレート。子どもたちが投げた言葉をきちんと受け止め、投げ返してあげるとい会話のキャッチボールできていますか? 【子育てに失敗もあり】 奪ってはいけない経験の一つに「傷つく」という行為がある。親子の会話の中でもそんなにうまくいくときばかりではない。子育てに失敗はありで、そのまんまを認めあえるのが良いし、親同士でもそういう場があるのがベスト。			参加者の半数が神山町民で、子育て中のお母さんはもちろん、お父さんや現役保育士さん、独身の方など様々な方が参加された。「森のようちえん」という「形」ではなく、人(子ども)との関わり方が大切ということに「目からうろこ」とい参加者も多かったようだ。「聴く」ことの重要性も、「そんなことは初めて考えた」「知ってはいたけど、改めて考え直すきっかけができた」とそれぞれに持ち帰るものがあつたようで、会場を去るみなさんのリラックスした表情が印象的だった。 今回参加された保育士さんは早速園長に研修内容を報告するなど、今回学んだことが少しずつ保育や教育の場に浸透していきつつある。今後も継続して皆で学ぶ機会を設け、この町らしい子育て環境を構築してゆきたいと考えている。			
61	宮川「くらの会」	長野県茅野市	①大西 拓一郎 ②澤木 幹栄 ③野沢 千穂子 ④唐木 チェ子	①国立国語研究所 教授 ②信州大学 名誉教授 ③長野県図書館協会 会長 ④NPO法人 CLIPinすわ理事	方言カルタ音声版(CD)刊行記念講演会	平成28年11月19日(土)
	講演内容			研修成果		
【講演】 ・ことばの地理学」大西拓一郎氏 ・「ことばの豊かさ」と愉しさ」澤木幹栄氏 【パネルディスカッション】 ①映像と音声によるカルタ紹介 ②カルタ作成の裏話とこれからの活用 ③講師と受講者とのディスカッション			・大西講師の甲州地方と八ヶ岳山麓の方言の繋がりが、澤木教授の伊那谷からの影響の解説により特に茅野地方の方言の特徴が明確となった。また、世代間ギャップの差を埋めるために今回の企画が有効であったと評価された。 ・音声CDの刊行が方言の文字表記で伝わり難いことを解消し、子どもの理解に大いに役立つと指摘された。 ・12月10日に諏訪市で開催される放送大学公開講演会(大西講師)は予定定員を大幅に超え、急きょ会場を変更するなど方言への関心の高まりを生んだ。			
62	NPO法人 ひむか感動体験ワールド	宮崎県延岡市	山口 成美	おおむら夢ファーム シュシュ代表取締役	6次化クリエティブセミナー	平成28年11月14日(月)
	講演内容			研修成果		
九州内の6次産業化にて成功をおさめている第一人者「おおむら夢ファームシュシュ」の山口氏をお招きし、地域資源を最大に活かした観光農園の取り組みや特産品開発を始めとする成功事例を含む、さまざまなアイデアや苦労などを学んだ。これまで田舎で観光客など来ることなかった大村市に、今では49万人の観光客が目的地として集まってくるまでになった取り組みや他のやる気のない農家さんをその気にさせて、結果的に後継者問題解消にまでさせた山口氏のアイデアとバイタリティーには目からうろこ状態で、参加者全員が刺激をもらった。講演中は終始笑いの絶えない時間となり、質疑応答の時間も活発に質問が飛び交った。			参加された多くの方から、勉強になった!自分で取り組む勇氣と自信をもらった!など絶賛の評価を頂いた。今回、延岡市内で観光農園や民泊業を行っている者やこれからスタートする予定者、そして6次産業化を目指す者、行政担当職員なども参加しており、山口氏の実践してきた取組やアイデアを聞きながら参加者の多くが終始うなずいたり、真剣にメモをとったりしていた。またそれぞれが抱えている課題や不安を解消できるヒントもたくさんもらえた模様。エリアは違っても共感する部分も多く、すでに成功している実践者から参考となる取組を開けたことで、大変刺激をもらいやる気が出たようだった。今後延岡で目指す各取り組みにも大いに役立つ講演になった。			
63	安藤昌益資料館を育てる会	青森県八戸市	①赤坂 憲雄 ②鈴木 克彦 ③高橋 寛子 ④三浦 忠司	①学習院大学教授 ②「北のまほろば」案内人 ③エッセイスト ④八戸歴史研究所会長	司馬遼太郎と安藤昌益	平成28年11月5日(土)
	講演内容			研修成果		
安藤昌益資料館開館7周年記念シンポジウムは「司馬遼太郎と安藤昌益」をテーマに取り上げた。 作家司馬遼太郎は以前、八戸を訪れている。その際、安藤昌益に深い関心を示し、八戸の風土が生み出した日本唯一の独創的社會思想家として『街道をゆく』に取り上げている。作家司馬遼太郎の目から見た東北・八戸を赤坂憲雄氏は大阪生まれの司馬遼太郎が、北の地東北を昔から好んでいたことや、司馬の好んだ東北の作家たちや司馬の書籍を紐解きながら司馬遼太郎の心を読み解く講演内容に参加者の方々も熱心に耳を傾けていた。 また、赤坂氏は、司馬遼太郎の安藤昌益論がとても魅力的であるが、「陸奥のみち」で語られたものと、のちに「秋田県散歩」のなかで示されたものとは、微妙に温度差やずれが感じられると話した。 司馬の『街道をゆく』の中の一節、「司馬はいう、これほどの危険思想をひそかに門人にちに伝授した昌益の凄みもさることながら、『それをいっさい渡らさず、昌益という存在を珠玉のようにしておおぜいの掌で包んでいた八戸人の命がけの人情や気骨』また、近世日本のほかのどの地方にもなかった凄みである。」がとても印象的だったとの声があつた。			司馬遼太郎は作家として関心度が高かったせいかわ、参加者は昨年より多く、今回は女性客が多かった。 基調講演者であった赤坂憲雄さんのお話「司馬遼太郎と安藤昌益」は司馬の歩んできた作家としての生涯を詳しくわかりやすく説明され、来場者の関心を強く引いた。 また、鈴木氏は実際に司馬を「北のまほろば」に案内した際のエピソードを話され、知られざる司馬の一面に、会場の笑いを誘った。シンポジウム後の質疑応答では、来場者の活発な意見・質問により会場が大いに盛り上がった。 司馬遼太郎から見て魅力的だった、安藤昌益という人物像や思想をより多くの人々に身近に感じてもらい、封建社会において平等思想を説いた素晴らしい人物が八戸にいたという事を知らせていきたい。そして、その思想を、安藤昌益資料館を通じて発信し、世界の偉人として確立させ、地域の活性化や歴史・文化の掘り起こしに貢献し、八戸の観光の活性化を目指したい。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
64	まち景まち観 フォーラム・茅ヶ崎	神奈川県茅ヶ崎市	①出口 敦 ②三牧 浩也	①東京大学教授、柏の葉 アーバンデザインセンター センター長 ②東京大学非常勤講師、 柏の葉アーバンデザイン センター副センター長	多様な主体の連携で取り組むまちづくり	平成29年1月22日 (日)
	講演内容			研修成果		
【講演】 ・出口氏「公・民・学連携まちづくりとアーバンデザインセンター」 ・三牧氏「アーバンデザインセンターの役割 - 柏の葉での取り組みから -」 【パネルディスカッション】 テーマ: 歩くまち茅ヶ崎 健康長寿社会 パネリスト: 出口氏、三牧氏、服部信明氏(茅ヶ崎市町)、澤山敦氏(富士ゼロックス株式会社)、高見澤和子(まち景代表) 進行: 岡村祐(首都大学東京准教授)			出口氏からは、「これからは地域の資源が魅力的なところに人が集まる。資源をどう活用するかが重要になる。『公・民・学連携』とは、地域主体のまちづくりの組織づくりである。まちづくりはチーム力である」とのお話をいただいた。アーバンデザインセンターが中心となり人々を集め、チームを編成し新しい体制を作るという方向性が示された。三牧氏からは、柏の葉における自治体、事業者、大学が進めるまちづくりのお話をいただいた。			
65	えりも花ファン倶 楽部	北海道えりも町	いがり まさし	植物写真家、音楽家	ヒダカタチツボスミのお話	平成29年1月22日 (日)
	講演内容			研修成果		
日本列島は60種類のスミが生息する世界でもまれにみるスミの豊富な地域である。多様な気候帯、起伏にとんだ地形など、様々な要因があげられるが、人類の里山活動により大陸的な種が残っていることも見逃せない。近年の研究では、茅場と呼ばれる草原の起源は1万年以上前の縄文時代に遡ることができる。人類の里山文化の特筆すべき点である。日高地方は日高山脈にさえぎられて積雪が少なく大陸的な気候であることに加え、冷涼な夏季が高山系、北方系の種を保ち、特有の種生を持つ人間の居住地域に隣接している生息地も多い。			まず、目標の参加人数を確保できなかったが、52名の参加があった。これらの人々がすべて今後の自然への興味に繋がっていくかは分からないが、表面に現れなくとも、何かしらで心に留まることがあったのではないかとと思う。講演の内容は、参加者には少し難しかったとの意見もあったが、断片的でも脳裏に留まることで自然への興味に繋がっていくことと思う。つづいてリコーダーの演奏をしながら花風景を画像で流した。メロディと控えめな花風景の映像がうまくマッチングして、心地よいときを参加者に与えてくれた。厳しい冬のさなか、一早い春を感じて頂けたと思っている。当初予定していたヒダカタチツボスミについては、昭和8年に発見されてからのこれまでの経緯を説明していただいた。昭和の初期からこの地域が植物学のフィールドになっていたと思われることにその希少性を改めて感じてもらえたと信じる。			
66	NPO法人 三重すまいくら し相談室	三重県四日市市	①伊藤 順子 ②森本 千川	①UDほっとねっと 代表理事 ②エラ・ブラン 専務、建築士	一人で悩まず地域で支え合う介護に向けて「親の介護は十人十色～女性建築士のリアル」	平成28年12月4日 (日)
	講演内容			研修成果		
ご自身がお両親のために設計した高齢者のための家、その後の介護生活についてお話しいただいた。設計したときに配慮したもの、実際介護して経験したギャップがあり、体験してみないと分からないことが多い。 ・高齢者に必要な「省エネルギー住宅」というよりいかに体力を使わないで生活できるかという「省体力住宅」が良い。 ・最終的に施設入所を考えているかどうかで介護の方法も変わる。 ・親の習慣を変えない(間取りも) ・75歳くらいから何らかの変化が出る。 ・老化とは「自分の事しか考えられなくなる」ことだと考える ・地域の中での介護(相談場所など)			未経験の介護についてとても不安な人が多い。そしてその立場にならない状況や事情が千差万別でどう対処すればいいのか？ひとくくりな対応ではムリがある。まずどこに話を聞きに行けばよいか？どんな相談ができるのか？を知っているだけでも心強い。地域の中で介護する人のコミュニケーションの場所があるとお互いの個々の支えになり、孤独にならないような仕組みを作っていくことが大事だと考える。			
67	榛名まちづくり ネット	群馬県高崎市	①山本 隆志 ②久保田 順一	①筑波大学名誉教授 ②群馬県地域文化財保護 審議会委員	歴史資源を活かして、「食と芸術と癒しの里」の実現を目指して！	①平成28年11月5日 (土) ②平成28年11月26日 (土)
	講演内容			研修成果		
地域づくり団体「榛名まちづくりネット」活動のメインテーマである『食と芸術と癒しの里』実現を目指すために、地域の資源を再発見し攪拌させ、再生させる活動の一環として歴史資源を活かしたまちづくり講演会を開催した。活動を担う人づくり、次世代の推進者を育成するために榛名山麓地域の中世の歴史内容を研修し地域社会を構築する手法と、活動を展開するに当たっての心構えを伝授してもらい、当地域の社会的ステイタス向上を図る方策と地域の保全、管理について学び、今後も実践していくことを確認する研修会であった。			歴史を活かしたまちづくり講演会は、地域づくり団体「榛名まちづくりネット」が主導・主体となって他団体との連携により実行委員会を組織し、講演会開催により目的を果たすことができた。榛名山麓は高齢化で地域存続が危ぶまれている現状にあり、これを食い止めるために、関連団体と連携できる礎ができた。この研修会を通じて、各団体が連携し、今後あらゆる問題・課題に取り組むために聴講者も共に活動するネットワークが構築され、協働して活動していくことが確認された。			
68	特定非営利活 動法人 とめ市 民活動フォー ラム	宮城県登米市	児玉 宏	特定非営利活動法人 コーチズ 代表理事	ガンバルーン体操 体操指導士養成講習会	平成28年11月19日 (土)～ 11月20日(日)
	講演内容			研修成果		
初日の講座は、「ガンバルーン体操普及員」「ガンバルーン体操インストラクター」テキストを活用し、体操の目的や効果、そして、基本的な動作「基礎ファイブ」と、インストラクターとして必要な動作(21項目)と注意点、そして、インストラクションのコツについて、ロールプレイングを交えながら学んだ。2日目は、「ガンバルーン体操指導員」テキストと「ゲームインストラクター」テキストを活用し、数グループに分かれて、実際に地域に出て活動する際を想定し、10分間の体操プログラムを作成するワークとロールプレイングを中心に学び、その後、バルーンを使ってのゲームも体験し、バルーン体操の多様性についても学んだ。			登米市は健康寿命が短い(特に男性)、そして、地域のサロン等で男性参加者の確保が難しいとも言われている状況の中、今回の指導員養成講座は、受講者の半数が男性であったことが一番の成果と言える。参加者からは、「ガンバルーンは体操だけでなく、ゲームへと発展していくことができるので、これなら男性が興味を持ち、リピートで参加したくなる」「これを各地域で広めていき、地区ごとの大会、更には登米市全体などに広がれば、地域の活性化にもつながるのではないかと」「早速、地域のメディアで試したい」「参加者が集まって、練習会があるとうれしい」などたくさんの意見を頂いた。今後は、ガンバルーン体操指導員等でコーチズみやぎ(仮称)の組織化も視野に入れ、登米市民の健康増進及び地域活性化に向けて力を入れていきたい。			

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
69	白川市白川大卒都婆地区中山間地域等協議会	宮城県白石市	志村 尚一	有限会社ウィルビー代表取締役	中山間地域における直売所を中心とした地域活性化	平成29年1月13日(金)
	講演内容			研修成果		
<p>・人は皆、価値観も考え方も違うもの、どこからか他人事でどこからか自分事か。 ・何から始めればいいのか。まずは若者を中心に集まり10年後大卒都婆がどうなっているのかを話し合うことから。 ・ビジョン(あるべき姿)を達成するために、解決しなければならない課題を話し合う。必要なのは「絶対にこうなりたい」という強い覚悟と意思。 ・話し合いのなかで人と人がつながる。つながることで「ありがとう」の言葉が飛びあふ。 ・みんなで役に立つ人をつくりだす。 ・統一テーマは『人』『人材が地域を創る』</p>			<p>・講師の志村尚一氏は、宮城県の中山間地域振興大会で複数回講演しており、また全国各地の現場に入っている指導には定評がある。今回、講演前に大卒都婆地区の農地の状況や鳥獣害対策等の現場を見てもらったことで、より身近な講演内容になった。このことで、多くの参加者から「来てよかった」「元気になった」「人と人がつながる、世代間交流が地域を創っていくことを気づかせてもらった」「今回の講演をきっかけに、民衆が幸せになる大卒都婆地区を目指したい」という声が出た。 ・講演終了後の意見交換会で、講師が話した「『ビジョン』づくりを目指して「住民アンケート調査」をやろうということになり、29年度の地域づくり活動として取り組むことになった。 ・講演会には、当初の予定を上回る多くの住民が参加した。特に若者の参加が多く、今回の講演会をきっかけに若者グループが「(仮称)地域づくりの会」を立ち上げるようになった。</p>			
70	放課後子どもクラブBremen	宮城県石巻市	田口 久美子	和洋女子大学教授	地域の子育て学習会 「児童クラブの現状から子育てや地域づくりを考えよう」	平成29年2月25日(土)
	講演内容			研修成果		
<p>この研修会は、石巻地域の子育てを考える市民や児童クラブの保護者や関係者が、ともに学ぶ学習会の第2弾として実施しました。子どもの発達を継承として、そこに関わる地域の色々な人的資源が横断として関わることで子どもたちがよりよく発達することを、実例を示しながらお話いただきました。2015年のアンケート調査の結果を踏まえながら、丹念な調査に裏打ちされた子ども児童クラブ支援員の言葉を紹介していただき、とても分かりやすい内容でした。</p>			<p>石巻市で同じ民間の児童クラブを運営するにじいろクレヨンと共催で行いました。市議員や石巻市担当者、児童クラブの支援員、子育て当事者をはじめ、地元で子どもに関わるさまざまなNPO団体が集まりました。障がい者、ひきこもり問題も含め横断的に児童クラブの現状と課題を見つめることで、それぞれが個人や地域の在り方について考えるきっかけになりました。アンケートにはいろいろな考えがあり、今回の会に参加できてとてもよかったです。「人との触れ合いの大切さ、出会いの大切さ、ありがとう！」と頑張っている人を見る自分も頑張れそうです。」等の言葉があり、エンパワメントが見られました。今回の講演会を通して、現場の指導員や子育て当事者が声をあげ、自ら自分たちの地域を良くしていくという意識が育ちました。</p>			
71	黒沢尻東地区自治協議会	岩手県北上市	藤原 翼	津軽三味線演奏者	菊水学級・なでしこ学級合同「津軽三味線演奏」	平成28年12月2日(土)
	講演内容			研修成果		
<p>津軽三味線のルーツ、歴史、演奏のポイントについて講演し、青森県、秋田県、福岡県の民謡を一曲ごとに題名の説明や地域の厳しい風土のトークを交えて講演した。 【講師経歴】13歳から14年間演奏し、月1回は老人ホーム等の施設を慰問する。今後は歌も交えた演奏活動を目指す。 【三味線のルーツ】歴史は中国(シルクロード)から沖繩経由、京都で発展し江戸時代に三味線として確立した(二胡→馬頭琴→三味線→琵琶→胡弓→沖繩三味線) 【演奏のポイントについて】三味線は雰囲気伴奏者が演奏し、東北地方の雪深い山や海の荒波の厳しさを表現し、技巧面のサウンドは力強い魂の鼓動を感じさせ、演奏の合間に何回も拍手があり、会場は演奏者と受講者がひとつになった。</p>			<p>伝統楽器である三味線の歴史と演奏鑑賞は日本の伝統津軽三味線を身近に感じ、三味線のルーツの見聞を広め、健康で生き生きとした生涯学習を学ぶ機会により黒東地区の地域活動の一員として、いっしょに学ぶ仲間との絆が強化され積極的に地域に溶け込み、お互いに支え合い助け合う地域社会の確立ができた。</p>			
72	自然と暮らしの学校「てつなぐ」	長崎県長崎市	①渡部 達也 ②渡部 美樹	①NPO法人ゆめ・まち・ねっと代表 ②NPO法人ゆめ・まち・ねっと事務局長	『子ども目線でつながりたい居場所』のあるまちづくり	平成29年2月24日(金)
	講演内容			研修成果		
<p>【研修会】講師の渡部達也さんから放課後の子どもの居場所、子ども食堂、プレーパークなど活動事例を紹介いただいた。子どもの現状を統計や新聞記事から読み解いたり、居場所に関するワークショップを行い、質疑応答で参加者と考えを深めた。 【講演会】講師の渡部達也さん主宰のNPO法人ゆめまちねっとの活動事例を午前の研修のハイライトと共にお話していただき、法人が行ってきた居場所づくり活動の12年間の実践とあゆみ、その中で出会った子ども若者について語っていただいた。質疑応答ではたくさん質問も出て、参加者の関心が高かった。</p>			<p>長崎の方々と思い共有する機会を持ってました。述べ71名の方々地域の居場所について考える機会を持って。後日新聞に取材記事が掲載予定。会ではそれぞれの現場や家庭で学びを活かしてもらおうことを伝えた。講演いただいた行政の方にも出席いただいた。 【参加者の声(五段階評価)】 ★研修会:評価4.7(アンケート回収率79%) ・データなど提供してくれて客観的に子どもの実態を知ることができた。 ・勉強になっただけでなく、なにか行動できればと思っています。 ・不登校ひきこもりのことばかり考えすぎて、もっと広い目で自分の身の丈に合ったことをしていけばいいのかなと思いました。 ・困っている子を見て見ぬふりして切り捨てる教員にはなりたくないと思った。 ★講演会:評価4.5(アンケート回収率74%) ・学校だと転勤があったりするし、行きにくいというのもあるので、第三の場があることの大切さを学びました。 ・保育者を養成している立場から、できることを考えていこうと思います。</p>			
73	浅口市コミュニティ推進協議会	岡山県浅口市	石原 達也	NPO法人岡山NPOセンター副代表理事	地域チャレンジトーク	平成29年2月25日(土)
	講演内容			研修成果		
<p>・講演「これからのまちづくりについて」 人口減少、少子高齢化といった社会課題がある中、今後コミュニティとして、どのように地域づくりに取り組んでいってらるらいいか。浅口市の人口等の状況とともに島根県雲南市や岡山県津山市など、県内外各地の地域による様々な取り組み事例を紹介。地域課題が多様化する中、それぞれの地域の状況に応じて、行政との協働により、課題の解決に取り組んでいく必要がある。 ・実践発表 市内6地区(金光町歌麻屋地区、佐方地区、鴨方町中山地区、六愛・荒張地区、寄島町尾焼地区、西安倉地区)が各地区の状況や特色ある地域づくりの取り組みについて発表した。 ・意見交換 実践発表の内容を聞いた後に、「質問」「感想」を付せん書き、講師の進行のもと参加</p>			<p>講師による講演及び実践発表により、これからの地域づくりに必要な視点とその手法について学ぶ事ができた。特に、市内の地域ごとの高齢化率のデータや、県内外の地域づくりの具体的な事例紹介からは、効果的な課題解決と魅力ある地域づくりに向けて具体的なイメージを持つことができた。 また、他地域の人と意見交換を行うことで、地域課題について情報の共有を図ることができ、今後の地域運営を考えるうえで良い機会となった。 参加者アンケートからは、「各地域での取り組みを知る事ができ、勉強になった」「今後の自地域の運営に生かしたい」「各地域で色々方法が異なっていて、活動を考えさせられた」等の意見が寄せられた。</p>			
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日

<p>公益社団法人 奈良まちづくり センター</p>	<p>奈良県奈良市</p>	<p>①Mr.Pen Sereypagna ②Mr.Rohit K.Ranjitkar ③Mr.Kyan Dyne Aung ④Ms.Catrini Pratihari Kubontubuh</p>	<p>①Khmer Architecture tours(director) ②Katumandu Valley Preservation Trust(Nepal director) ③Yangon Heritage Trust(Senior Program Officer) ④Indonesian Heritage Trust(Chairman)</p>	<p>アジア・ヘリテイジネットワーク国際フォーラム ーアジア新興国の歴史的町並み保存活動支援に 向けてー</p>	<p>平成29年1月14日 (土) ～1月15日(日)</p>
		講演内容		研修成果	
<p>74</p>	<p>司会によりフォーラムの開会が宣言され主催者より挨拶、参加者紹介の後、フォーラム進行により各国の講演と質疑、意見交換が行われた。 ①カンボジアのクメール建築ツアー:カンボジアの建築家が設計した近現代建築物の建築ツアーという、国内外の観光客に対するツアー等の活動報告。 ②カトマンズバレー保存トラスト:地震で崩壊した寺院などの文化遺産建築物の修復、保存について、建築だけではなく周辺技術の保存等の活動報告。 ③ヤンゴンヘリテイジトラスト:政策提言や文化遺産の保存支援、市民啓発、具体的な保全活動、調査や情報発信、セミナー、ツアー等の活動報告。 ④インドネシアヘリテイジトラスト:インドネシアの保全憲章から、会の設立の歴史、自然等の災害対応、経済対応、都市モデル、遺産運営計画等の活動報告。 会場質疑応答の後、コメンテーターより詳細なコメントがあった。</p>			<p>今回の国際フォーラムは新興国4か国が行っている文化遺産保全や町並み保存についての活動を学び、各国同士の比較の中で、現在対応できていない事案や解決策を学び取ることができた。また、インドネシアヘリテイジトラストとカトマンズバレー保存トラストは、活動規模も大きく、模範となる文化遺産保全活動をしており、組織運営の経済面のノウハウについてもシェアできた。新興国とはいっても、国家的プロジェクトに携わる内容もあり、民間活動からスケールアップした活動について、日本の民間による文化遺産保全活動や海外への支援活動を実施するための課題も浮き彫りとなった。</p>	

NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
75	梅が里ギャラ リー手づくり屋	長野県宮田村	北原 憲作	WNライフ・ながの 代表	障がい者のモノづくり活動の支援と、就労活躍の場づくり ノーマライゼーションの街中活性化の拠点づくりを目指して	講義:平成29年1月28日(土) 指導:平成29年1月6日(金) 1月20日(金) 2月3日(金) 2月10日(金)
					講演内容	研修成果
					テーマは「障がいを持つ人とクラフト作家たちがともに取り組むモノ作りを通じた街中活性化」漠然とした障がいのイメージを、自分の中で見える化をしてみる。自分が何ができるかを考えることで視野が広がり、障がい者に対して新しい支援ができる。	手づくり屋は商店街の空き店舗を活用して2008年にオープン。会員によるモノづくりを通じたコミュニティーづくりと街中活性化の活動を行い、会員や協力団体は年々増えている。会員には障がいを持つ者も多く参加しており、障がいの有無に捉われない活動の輪を今後も広げていくための会員相互の意識の向上と、広く地域の人たちへの発信の機会となった。
NO	団体名	所在地	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
76	NPO法人ネット 八代	熊本県人吉市	末吉 希巳子	株式会社末吉・歴史文化 研究所専務取締役	食文化を活かしたおもてなしのまちづくり	平成29年2月23日 (木)
					講演内容	研修成果
					全体交流会のアドバイザーとして「食の名人」が持ち寄った郷土料理を参加者に喜んで楽しんでもらえるよう、並べ方・見せ方を考えて配膳した。郷土料理は家庭で作ってきた母の味であり、食べても飽きないその土地の食文化である。地域づくりとは生まれ育った土地をいかに愛し自慢できるかということ。何も無い当たり前がいかに大事だったかを今回の地震で改めて思い知らされた。八代は小林一茶の俳句におもてなしが当たり前が昔から行われていたり、豊臣秀吉が南国みかんを食して以来献上品としてみかん奉行が任命され大切に守られてきた。このように食を通じた人と地域の繋がりが分かると、その地域の宝となりおもてなしにもつながる。	・全体交流会参加者はスライドで振り返りを行うことで前例がない酒蔵での苦労と盛り上がり方を改めて感じ、これからの活動にヒントを得た。 ・当たり前のことが長い歴史や文化があったと知り、もっと深く学びたいとの声が多かったので次の機会を作りたい。 ・ワークショップでお互いの考え、活動を知り、もっと深く学びたいとの声が多かったので次の機会を作りたい。